

# Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新 およびリリースノート

マニュアルコード C120-E600-01 Part No. 875-4579-10 2009 年 6 月、Revision A Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本書には、富士通株式会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または 管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保 護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権に は、http://www.sun.com/patents に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつ または複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒 布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品また は技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示 的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本 書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むもので も示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている 場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. ヘライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお 申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、 X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun StorEdge、docs.sun.com、OpenBoot、SunVTS、SunSolve、CoolThreads、 J2EE および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録 商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している 同社の商標です。

SSHは、米国およびその他の特定の管轄区域における SSH Communications Security の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun<sup>™</sup> Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向け に開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたは グラフィカル・ユーザーインタフェースの概 念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面 によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights – Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項:本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関 連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような 契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、 または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま 提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙 示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような 契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法 理論のもとの第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間 接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用 される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、 明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

原典: Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Feature Updates and Release Notes Manual Code: C120-E600-01EN

## 目次

はじめに ix

 ILOM 3.0 機能セット 1
 ILOM 3.0 システム要件とファームウェア互換性 1
 ILOM 3.0 機能セットの概要 1
 SP上での ILOM 3.0 ファームウェア 2
 サーバ固有の ILOM 機能 2
 CMM 上での ILOM 3.0 ファームウェア 2
 CMM のシャーシレベルの管理 3
 CMM および サーバ SP の CLI 接続 3
 CLI での CMM と SP のアドレス空間 4
 CMM および サーバ SP の Web インタフェース接続 4
 CMM ILOM の Web インタフェース 5
 Server SP ILOM の Web インタフェース 5
 ILOM 3.0 のバージョン番号 6
 関連する ILOM 3.0 マニュアル 6

 ILOM 3.0.3 ファームウェアへの更新 7

ILOM 3.0.3 の新しい機能 8

改良されたシャーシビュー 9

電源管理メトリック 10

#### 消費電力履歴 10

▼ CLI を使用して消費電力履歴を表示する 11

▼ Web インタフェースを使用して電源消費履歴を表示する 14 BIOS ホストブートデバイスを上書きするための強化された機能 16

- ▼ CLI を使用して BIOS ホストブートデバイスの上書きを構成する 16
- ▼ Web インタフェースを使用して BIOS ホストブートデバイスの上書 きを構成する 17

障害の発生したコンポーネントを交換した後に、障害をクリアする 19

- ▼ CLI を使用した障害の表示とクリア 20
- ▼ Web インタフェースを使用した障害の表示とクリア 21

ILOM Web ページで使用できるジャンプリンク 22

「ユーザー管理 (User Management)」-->「Active Directory」 22

「ユーザー管理 (User Management)」-->「LDAP/SSL」 23

「構成 (Configuration)」-->「システム管理アクセス (System Management Access)」-->「SNMP」 23

「ユーザー管理 (User Management)」-->「ユーザーアカウント (User Accounts)」 24

ILOM 3.0.3 までに解決済みの問題 24

国際キーボードでの Alt Graph キーの機能 25

- ファイルをアップロードしているときに、Web インタフェースが 「参照 (Browse)」ボタンを表示しない 25
- 新しく作成された SSH キーが SSH サーバの再起動の必要なしにすぐに使用 可能に 26
- SSH ホストキーをロードしてもエラーメッセージが表示されない 26
- IP アドレスを使用した電子メールアドレスが「警告管理ルールクエリー (Alert Management Rule Query)」で許可される 27

ILOM 3.0.3 時点での既知の問題 27

SP 再起動の後、BIOS 更新がすぐに行なわれない 28

外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセットしない 28

時間刻みの電力平均タイムスタンプが1時間未満の増加分を計測しない 29

バックアップと復元の後、SSH キーの復元に失敗する 29

マニュアルの更新と正誤表 30

set コマンドのターゲット、プロパティー、および値 31

- いくつかの SPARC システムで最大 5 つのアクティブセッションを サポート 33
- 前のバージョンの ILOM を使用している SPARC システムでは電源ポリシー は使用不可 33
  - ▼ Web インタフェースを使用して電源ポリシーを構成する 33
- 以前の ILOM バージョンへの変更が完了しない 35
- SSH は SSH サーバを再起動することなしに新しく作成されたキーを 使用する 35

ILOM インベントリで ILOM HTTPS SSL プロパティーが表示されない 36

電力を監視するための SNMP コマンドが間違っている 36

ラックマウントサーバは ILOM へのシリアル接続をサポート 37

- TFTP はスナップショットユーティリティでサポートされている転送方法 ではない 37
- CMM Web インタフェースは Storage Redirection サービスとクライアント CTI ツールへのダウンロードリンクを提供する 37

available power は hwconfig power より大きいというルールの例外 38

3. ILOM 3.0.4 ファームウェアへの更新 39

ILOM 3.0.4 の新しい機能 40

SP のための電源管理の新しい Web レイアウト 41

CMM のための電源管理の新しい Web レイアウト 42

消費電力しきい値 43

- ▼ CLI を使用して電源しきい値を表示および構成する 43
- ▼ Web インタフェースを使用して電力しきい値を表示および 設定する 43

CLI セッションのタイムアウト値を設定する 44

▼ CLI を使用してタイムアウト値を設定する 44

- LDAP/SSL の「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」を 編集する 45
  - ▼ CLI を使用して LDAP/SSL で「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」を編集する 45
  - ▼ Web インタフェースを使用して、LDAP/SSL の「省略可能ユーザー マッピング (Optional User Mapping)」を編集する 46

ILOM から直接 SNMP MIB をダウンロードする 48

- ▼ CLI を使用して ILOM からダウンロードされた SNMP MIB 49
- ▼ Web インタフェースを使用して ILOM からダウンロードされた SNMP MIB 49

アクティブセッションでユーザーロールを表示する 50

- ▼ CLI を使用してアクティブユーザーセッションのロールを表示する 50
- ▼ Web インタフェースを使用してアクティブユーザーセッションの ロールを表示する 51
- ▼ Active Directory で拡張検索モードを表示および構成する 52
- ▼ CLI を使用して Active Directory で拡張された検索モードを表示および構成する 52
- ▼ Web インタフェースを使用して Active Directory で拡張検索モードを 表示および構成する 53

特定の警告の宛先へテスト電子メール警告を送信する 55

- ▼ CLIを使用して特定の宛先ヘテスト電子メール警告を送信する 55
- ▼ Web インタフェース を使用して特定の警告宛先へテスト電子メール 警告を送信する 55

ILOM リモートコンソールのコンピュータロック 56

- ILOM リモートコンソールのロックオプションを有効にするときの特別な 考慮点 56
- ▼ ILOM CLI を使用して ILOM リモートコンソールのロックオプションを 編集する 57
- ▼ Web インタフェースを使用して ILOM リモートコンソールのロックオプ ションを編集する 60

新しい ILOM SP ネットワークポート 61

遠隔ホスト KVMS のための強化されたマウスモード設定 62

- ▼ CLI を使用して遠隔ホストのマウスモード設定を編集する 62
- ▼ Web インタフェースを使用して遠隔ホストのマウスモード設定を 編集する 62

ILOM 3.0.4 までに解決済みの問題 63

- デフォルトのロールが「なし (none)」に設定されているときに、LDAP また は RADIUS コマンドが動作しない 64
- Active Directory 構成から dnslocatorquery レコードを削除することが 困難 64
- タイムゾーンを設定するために CLI を使用しているとき、特定のタイムゾーン でクロックが正確に再計算されない 64
- スナップショットユーティリティがデバッグのためのログファイルを 欠落する 66
- set /{target}/config dump\_uriのための ILOM CLI が確認メッセージを 表示しない 66
- 「読み取り専用 (Read-Only)」/SYS プロパティーに関するロールのヘルプの テキストが間違っている 66
- 電源管理プロパティーに関するヘルプのテキストが間違っている 67
- <TARGET> <property> <property> の結果として得られるヘルプ出力が混乱 している 67

/SP/users/root/ssh/key/1-5の不正確なヘルプのテキストの値 68

ILOM の外部シリアルポートのフロー制御が誤って実装されている 68

ILOM 3.0.4 までに既知の問題 69

- CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、ILOM リモートコンソールが Windows クライアントを停止する 69
- マニュアルの更新と正誤表 70

許可できる DNS 再試行の数が間違っている 70

新しい Web 電源管理レイアウト 70

消費電力しきい値 71

## はじめに

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』では、 ILOM 3.0 リリースから ILOM ファームウェアに適用されてきた機能拡張について 説明します。

ILOM 更新バージョンは、通常 2、3 か月おきにリリースされます。ILOM をサポートしているすべてのサーバに共通の新しい ILOM 3.x.x 機能は、このガイドの中で説明されています。特に、ガイドの各章では、それぞれの新しい ILOM 3.0.x リリースの追加機能と問題を説明します。

このマニュアルは、ネットワーキングの概念および基本的なシステム管理プロトコル についての知識があるシステム管理者を対象にしています。

**注** – このマニュアルの説明は、ILOM をサポートしているサーバにのみ適用されま す。説明中の「すべてのサーバプラットフォーム」は、ILOM をサポートする富士通 のサーバを指します。使用中のサーバによっては、いくつかの ILOM 機能はサポー トされません。事前に、各サーバの ILOM 補足マニュアルとプロダクトノートを確 認してください。

## 関連マニュアル

このガイドで説明されている情報を完全に理解するには、このガイドを次の表に示す マニュアルと一緒に使用することをお勧めします。SPARC Enterprise Series マニュ アルの最新バージョンは、次の Web サイトから入手できます。

グローバルサイト

http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/

日本語のサイト

http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/

まず、『ILOM 3.0 概念ガイド』を読み、ILOM の特徴と機能を理解してください。 ILOM がサポートしている新しいシステムをセットアップするには、『ILOM 3.0 入 門ガイド』を参照してください。ここには、ネットワークに接続する手順、ILOM へ の初回ログイン手順、ユーザーアカウントやディレクトリサービスを設定する手順が 記載されています。その後、その他の ILOM タスクを実行するために使用する ILOM インタフェースを決定してください。インタフェースが決定されれば、選択し たインタフェース用の ILOM 3.0 手順ガイドを参照することができます。

次の表に、ILOM 3.0 の各種マニュアルを示します。

タイトル	内容	マニュアル コード
『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』	ILOM の特徴および機能に関する情報	C120-E573
『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』	ネットワーク接続、ILOM への初回ログ イン、およびユーザーアカウントやディ レクトリサービスの設定に関する情報お よび手順	C120-E576
『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガ イド』	ILOM Web インタフェースを使用して ILOM 機能にアクセスするための情報 および手順	C120-E574
『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』	ILOM CLI を使用して ILOM 機能にアク セスにアクセスするための情報および手順	C120-E575
『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手 順ガイド』	SNMP または IPMI 管理ホストを使用して ILOM 機能にアクセスするための情報およ び手順	C120-E579

ILOM 3.0 の各種マニュアルに加えて、関連する ILOM 補足マニュアルに、使用しているサーバプラットフォームに固有の ILOM 機能およびタスクが記載されています。ILOM 3.0 の各種マニュアルと、使用しているサーバプラットフォームに付属の ILOM 補足マニュアルを一緒に使用してください。

## 表記上の規則

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディ レクトリ名、画面上のコン ピュータ出力	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画 面上のコンピュータ出力と区別 して表します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	書名、新規の用語など、強調す る語句。コマンド行の変数を実 際に使用する特定の名前または 値で置き換えます。	『概念ガイド』の第6章を参照して ください。 これらはクラスオプションと呼ばれ ます。 この操作ができるのは「スーパーユー ザー」だけです。 ファイルを削除するには、rm filename と入力します。

\* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

このマニュアルに関してご意見やご要求がある場合、またはこのマニュアルに不明瞭 な記述がある場合、次の URL のフォームにその点を明確に記述してください。

## 米国、カナダ、およびメキシコのユーザー

https://download.computers.us.fujitsu.com/

## その他の国のユーザー

http://www.fujitsu.com/global/contact/computing/sparce\_index.html

第1章

## ILOM 3.0 機能セット

この章には、ILOM 3.0 機能セットに関する次の情報が含まれています。

- 1ページの「ILOM 3.0 システム要件とファームウェア互換性」
- 1ページの「ILOM 3.0 機能セットの概要」
  - 2ページの「SP上での ILOM 3.0 ファームウェア」
  - 2ページの「CMM 上での ILOM 3.0 ファームウェア」
  - 3ページの「CMM および サーバ SP の CLI 接続」
  - 4 ページの「CMM および サーバ SP の Web インタフェース接続」
- 6ページの「ILOM 3.0 のバージョン番号」
- 6ページの「関連する ILOM 3.0 マニュアル」

## ILOM 3.0 システム要件とファームウェア 互換性

システム要件および ILOM ファームウェア互換性を判定するには、使用している サーバのプロダクトノートを参照してください。

## ILOM 3.0 機能セットの概要

ILOM 3.0 機能セットは、ILOM をサポートするすべてのサーバプラットフォームに 適用される共通 ILOM 機能を提供しています。これらの機能は、サーバのサービス プロセッサ (SP) や、適用可能であればシャーシ監視モジュール (CMM) にインス トールされている ILOM 3.0 ファームウェアに組み込まれます。 **注 –** CMM は、ブレードモジュラーシステムに適用できます。CMM は、ラックマ ウントサーバには適用できません。

## SP 上での ILOM 3.0 ファームウェア

SP 上での ILOM 3.0 ファームウェアは、サーバの完全自動管理を管理者に提供しています。これには、サーバの電源を再投入し、ネットワーク接続をセットアップし、ユーザーアカウントとロールを作成および管理し、ローカルまたはリモートでサーバコンポーネントを監視および維持することが含まれます。

### サーバ固有の ILOM 機能

ILOM 3.0 SP ファームウェアは、多くのサーバプラットフォームで動作し、サーバ に固有の他の機能だけでなく、すべてのプラットフォームに共通の機能をサポート しています。使用しているサーバで固有にサポートされている ILOM 3.0 機能につ いての追加情報は、そのサーバ用に提供されている ILOM 3.0 補足ガイドを参照し てください。

## CMM 上での ILOM 3.0 ファームウェア

CMM 上での ILOM 3.0 ファームウェアは、DHCP を使用して静的または動的に割り 当てられた個別の IP アドレスを使って構成されています。CMM はサーバモジュー ル ILOM 構成に対してコンジットとして動作し、ネットワークアドレスや管理者 ユーザーアカウントといった設定を、設定または表示できるようにします。

CMM での ILOM は、ブレードモジュラーシステムのシャーシの、すべてのシャーシ コンポーネントおよび機能に対する主な管理ポイントとなります。これは、それらの コンポーネントの全体的な監視および管理機能を提供します。これには、サーバモ ジュール管理、システム電源管理、また電源モジュール、ファンモジュール、サーバ モジュール、Network Express Module といったインフラストラクチャーコンポーネン トのホットプラグ操作が含まれます。

加えて、CMM は、HTTP や CLI の「パススルー」インタフェースをサポートして おり、CMM での直接シリアルポート接続や 10/100/1000-BASE-T ネットワーク管理 ポート接続を通してシャーシ機能へアクセスすることを可能にします。

#### CMM のシャーシレベルの管理

CMM 上での ILOM は、シャーシレベルでのコンポーネントの個別システム管理や 集計管理を可能にする、階層管理アーキテクチャを提供します。

CMM の管理機能の概要には、次が含まれます。

- シャーシ環境センサーをサーバモジュールの BMC 機能に表示する、IPMI サテ ライトコントローラーの実装
- CLI、Web、SNMP、および IMPI インタフェース経由の直接の環境およびイン ベントリ管理
- CMM、Network Express Module (NEM)、およびサーバモジュール SP のファー ムウェア管理
- サーバモジュールと HTTP リンク、およびコマンド行インタフェース (CLI) SSH コンテキストのパススルー管理
- シャーシ電源制御
- 次のコンポーネントへのアクセス。
  - シャーシ
  - 電源
  - ファン
  - Network Express Module (NEM)
  - サーバモジュール SP

## CMM および サーバ SP の CLI 接続

ネットワーク接続、または CMM やサーバ SP 上のシリアルポートへの直接端子接続を 通して、CMM やサーバ SP 上の ILOM ヘアクセスするためのコマンド行インタフェー スを使用できます。

CMM や サーバ SP 上の ILOM ファームウェアが起動すると、CMM やサーバ SP の ログインプロンプトが、たとえば次のように表示されます。

■ SUNCMMnnnnnnnn login:

CMM ログインプロンプトの最初の文字列は、デフォルトのホスト名です。それは 接頭辞 SUNCMM と CMM 製品シリアル番号から構成されます。

SUNSPnnnnnnnn login:

サーバ SP ログインプロンプトの最初の文字列は、デフォルトのホスト名です。それ は接頭辞 SUNSP とサーバ製品シリアル番号から構成されます。

### CLI での CMM と SP のアドレス空間

次の表に、ILOM と対話操作するために使用できる CLI アドレス空間を示します。

ILOM 管理コンポー ネント	管理アドレス空間
СММ	<ul> <li>/CMM は、CMM 上の ILOM を管理するために使用されます。</li> <li>/CH は、シャーシレベルでのインベントリ、環境、およびハードウェ ア管理を提供するために使用されます。/CH アドレス空間は、ブレー ドモジュラーシステムでの /SYS に取って代わるものです。</li> </ul>
サーバ SP	<ul> <li>/SPは、サーバモジュール SPを構成して、ログやコンソールを表示するために使用されます。</li> <li>/SYSは、サーバモジュールレベルでのインベントリ、環境、およびハードウェア管理を提供するために使用されます。</li> </ul>
ホスト	<ul> <li>/HOST は、ホストのオペレーティングシステムを監視、管理するため に使用されます。</li> </ul>

## CMM および サーバ SP の Web インタフェース接続

Web インタフェース接続を使用して、CMM やサーバ SP 上で ILOM にアクセスする こともできます。ILOM への Web インタフェース接続を確立するには、Web ブラウ ザで CMM やサーバ SP の IP アドレスを特定します。開始画面が表示され、ユーザー 名とパスワードの入力を求めるダイアログが表示されます。

	Integrat	ed Lights Out Manager	
den de du de la companya de la comp	SP Hostname:	SUNSP001E688E4E44	2
	User Name:		
	Password:		
		Log In	
<b>HARAMAN</b>			

### CMM ILOM の Web インタフェース

CMM のメイン ILOM Web ページには、シャーシにインストールされた個別のコンポー ネントを監視および管理するために使用するナビゲーション区画があります。次の例に 示されているように、表示および構成できる設定は、ページの上に表示されている7つ のタブに編成されています。

Integrated Lig	hts Out Mai	nager					
Chassis	System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Ren Cor	note ntrol	Maintenance
Blade 0 Blade 1	Versions	Session Time-Out	Components	Fault Management		ldentif Inform	ication ation
Blade 5	Versions View the version	of ILOM firmware	currently in use.				
	Property		Value				
	CMM Firmware	e Version	3.0.0.0				
	CMM Firmware	e Build Number	42032				
	CMM Firmware	e Date	Tue Feb 10 13:38:13	2 EST 2009			_
	CMM Filesyste	m Version	0.1.22				

### Server SP ILOM の Web インタフェース

次の例に示されるように、サーバ SP のメイン ILOM Web ページでは、サーバのため に表示および構成できる設定が、ページの上に表示されている 6 つのタブに編成され ています。

ABOUT							REFRESH LO	OG OUT
User: root Role: aucro S	PHostname: SUNSPI Out Manager	001E688E4E44						
integrated lights								
System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance		
Versions Session Ti	me-Out Compone	ents Identification Info	rmation					
Versions								
View the version of ILOM firm	ware currently in use.							
								_
Version Information	_	_		_	_	_		
Property	Value							
SP Firmware Version	3.0.0.0							
SP Firmware Build Number	43790							
SP Firmware Date	Tue Apr 14 15:51:18	EDT 2009						
SP Filesystem Version	0.1.22							

## ILOM 3.0 のバージョン番号

ILOM 3.0 では、システムで動作している ILOM のバージョンを識別しやすいように、 新しい方式のバージョン番号付けが採用されています。この方式の番号付けでは、たと えば、a.b.c.d.eのように、5つのフィールドを持つ文字列が使用されます。

- a ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c ILOM の更新バージョンを示します。
- d ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラット フォームまたはプラットフォームグループごとに管理されます。詳細については、 使用しているプラットフォームのプロダクトノートを参照してください。
- e ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョン の増分イテレーションです。

たとえば、ILOM 3.1.2.1.a は、次のような意味になります。

- ILOM 3 は ILOM のメジャーバージョン
- ILOM 3.1 は ILOM 3 のマイナーバージョン
- ILOM 3.1.2 は ILOM 3.1 の 2 つ目の更新バージョン
- ILOM 3.1.2.1 は ILOM 3.1.2 のマイクロバージョン
- ILOM 3.1.2.1.a は ILOM 3.1.2.1 のナノバージョン

## 関連する ILOM 3.0 マニュアル

このガイドは、新しい ILOM 3.x.x リリースの新しい機能と問題を説明しています。 このガイドの各章は、それぞれの新しい ILOM ファームウェア更新に関連する、 ILOM 追加機能と問題を説明しています。

このガイドで説明されている情報を完全に理解するには、このガイドをixページの 「関連マニュアル」に一覧されているマニュアルと一緒に使用することをお勧めします。

まず、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』を読み、ILOM の特徴 と機能を理解してください。ILOM がサポートしている新しいシステムをセットアップ するには、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド』を参照してくださ い。ここには、ネットワークに接続する手順、ILOM への初回ログイン手順、ユーザー アカウントやディレクトリサービスを設定する手順が記載されています。その後、その 他の ILOM タスクを実行するために使用する ILOM インタフェースを決定してくださ い。インタフェースが決定されれば、選択したインタフェース用の ILOM 3.0 手順ガイ ドを参照することができます。

プラットフォーム固有の ILOM 更新については、ILOM 補足マニュアルを参照して ください。使用中のサーバプラットフォームに固有の ILOM 機能とタスクを説明し ています。ILOM 補足マニュアルは、サーバのマニュアルセットの中にあります。

## 第2章

## ILOM 3.0.3 ファームウェアへの更新

この章では、ILOM 3.0.3 ファームウェアリリースに追加された新しい特長と機能を 説明します。新しい機能を実装する手順が説明されています。既知の問題、解決済み の問題、およびマニュアルの更新も説明されています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 8ページの「ILOM 3.0.3 の新しい機能」
- 24 ページの「ILOM 3.0.3 までに解決済みの問題」
- 27 ページの「ILOM 3.0.3 時点での既知の問題」
- 30ページの「マニュアルの更新と正誤表」

## ILOM 3.0.3 の新しい機能

ILOM 3.0.3 ファームウェアリリースに統合されたいくつかの新しい機能がありま す。次の表は、これらの新しい機能を特定しており、その機能を説明しているセク ションを示しています。

項目

説明	リンク
更新された CMM シャーシ管理 ビュー	•9ページの「改良されたシャーシビュー」
強化された CMM 電源管理メト リック	• 10 ページの「電源管理メトリック」
プラットフォーム固有の消費電力の履 歴を表示するための強化された機能	<ul> <li>10 ページの「消費電力履歴」</li> <li>11 ページの「CLIを使用して消費電力履歴を表示する」</li> <li>14 ページの「Web インタフェースを使用して電源消費履歴を表示する」</li> </ul>
ILOM CLI や Web インタフェースを使 用して、BIOS でブートデバイス設定を 上書きするために強化された機能	<ul> <li>16 ページの「BIOS ホストブートデバイスを上書 きするための強化された機能」</li> <li>16 ページの「CLI を使用して BIOS ホストブート デバイスの上書きを構成する」</li> <li>17 ページの「Web インタフェースを使用し て BIOS ホストブートデバイスの上書きを 構成する」</li> </ul>
障害が生じたコンポーネントを修理 した後にイベントログから障害をク リアするための更新された情報	<ul> <li>19 ページの「障害の発生したコンポーネントを 交換した後に、障害をクリアする」</li> <li>20 ページの「CLIを使用した障害の表示とク リア」</li> <li>21 ページの「Web インタフェースを使用した障 害の表示とクリア」</li> </ul>
ジャンプリンク付きの強化された Web ページ	<ul> <li>22 ページの「ILOM Web ページで使用できる ジャンプリンク」</li> </ul>

## 改良されたシャーシビュー

ILOM Web インタフェースで、シャーシビューは次の機能強化を追加するよう変更 されました。

- 画面左側のナビゲーション区画は、存在しており管理可能なコンポーネントのみ に対して可視エントリを表示するようになりました。
- 「シャーシインベントリテーブル (Chassis Inventory Table)」は、シャーシビューの本体ページに表示されるようになりました。「シャーシインベントリテーブル (Chassis Inventory Table)」は、シャーシに存在しており管理可能なすべてのコンポーネントの名前、パート番号、シリアル番号についての情報を表示します。



### 電源管理メトリック

電源管理機能により、コマンド行インタフェース (CLI) や Web インタフェースから 消費電力メトリックを監視できるようになります。次の電源管理メトリックは、 ILOM をサポートしているすべてのサーバに共通です。

- 実電力 ラックマウントサーバやシャーシシステムで消費された電力を表示します。シャーシ監視モジュール (CMM) では、これはシャーシまたはシェルフ全体 (すべてのブレード、NEMS、ファン、その他) により消費される入力電力です。この値は、/SYS/VPS センサーを経由しても入手可能になります。
- 使用可能電力 ラックマウントサーバでは、この値は電源が消費できる最大入 力電力になります。シャーシシステムでは、この値はシャーシによってサーバモ ジュール (ブレード)へ保証された使用可能な合計電力になります。
- 許容電力 ラックマウントサーバでは、この値はいつでも消費できるとサーバが 保証する最大入力電力になります。シャーシシステムでは、この値はいつでも消 費できるとサーバモジュールが保証する最大電力になります。

#### 特別な考慮点

ILOM でシステムのために使用できる電源管理メトリックを表示する前に、次の情報を 考慮してください。

- ILOM をサポートしているいくつかのサーバは、SP によって消費される使用可能 電力、許容電力、また実電力の値を表示しない可能性があります。これらの電力 は通常 10 ワット未満です。
- ILOM をサポートしているいくつかのサーバは、CLI や Web インタフェースの「システム監視 (System Monitoring)」-->「電源管理 (Power Management)」ページの「拡張電源メトリック (Advanced Power Metrics)」テーブルにある/SP/powermgmt/advanced ノードの下位で、追加のプラットフォーム固有電源メトリックを提供することがあります。それぞれの拡張電源メトリックには、名前、ユニット、および値が含まれます。

プラットフォーム固有の電源管理情報については、サーバの ILOM 補足ガイドを参照してください。

CLI および Web インタフェースで電源管理メトリックを表示することに関する一般 情報については、ILOM 3.0 の各種マニュアルを参照してください。

### 消費電力履歴

ILOM は、センサーの履歴機能を平均化することによって、15、30、および 60 秒ご とに平均消費電力を表示するようになりました。消費電力情報は、個々のプラット フォームにより決定される速度で取得されます。その範囲は 1 ~ 8 秒ですが、通常 平均 3 ~ 5 秒程度です。 注 – ILOM CLI や Web インタフェースを使用して提供される消費電力履歴 この情報 は、IPMI や SNMP を通して入手することはできません。

#### 作業を開始する前に

■ 消費電力履歴の値を表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが 必要です。

### ▼ CLI を使用して消費電力履歴を表示する

- 1. ILOM にログインします。
- 2. 実際の消費電力を表示するには、次のコマンドを入力します。
  - サーバ SP から: -> show /SYS/VPS
  - CMM から: -> show /CH/VPS

```
例:
```

```
-> show /CH/VPS
 /CH/VPS
    Targets:
        history
    Properties:
        type = Power Unit
        ipmi name = VPS
        class = Threshold Sensor
        value = 1400.000 Watts
        upper nonrecov threshold = N/A
        upper critical threshold = N/A
        upper_noncritical_threshold = N/A
        lower noncritical threshold = N/A
        lower_critical_threshold = N/A
        lower_nonrecov_threshold = N/A
        alarm status = cleared
    Commands:
        cd
        show
```

- 3. 15、30、および 60 秒ごとの平均使用電力を表示して、平均消費履歴のターゲットの選択を表示するには、次のコマンドを入力します。
  - サーバ SP から: -> show /SYS/VPS/history
  - CMM から: -> show /CH/VPS/history

例:

```
-> show /CH/VPS/history
/CH/VPS/history
Targets:
    0 (1 Minute Average, 1 Hour History)
    1 (1 Hour Average, 14 Day History)
Properties:
    15sec_average = 1210.000
    30sec_average = 1400.000
    60sec_average = 1800.000
Commands:
    cd
    show
```

- 1 分ごとまたは 1 時間ごとの平均消費履歴をそれぞれ表示するには、適切なター ゲットを指定して次のコマンドを入力します。次の例では、1 分ごとの平均が選 択されています。
  - サーバ SP から: -> show /SYS/VPS/history/0
  - CMM から: -> show /CH/VPS/history/0

例:

```
-> show /CH/VPS/history/0
/CH/VPS/history/
Targets:
    list
Properties:
    average = 1500.000
    minimum = 1500.000 at Mar 4 08:51:24
    maximum = 1500.000 at Mar 4 08:51:23
    period = 1 Minute Average
    depth = 1 Hour History
Commands:
    cd
    show
```

- 5. タイムスタンプとワット単位での消費された電力といった、サンプルセットの 詳細を表示するには、次にように入力します。
  - サーバ SP から: -> show /SYS/VPS/history/0/list
  - CMM から: -> show /CH/VPS/history/0/list

例:

```
-> show /CH/VPS/history/0/list
/CH/VPS/history/0/list
Targets:
Mar 4 08:52:23 = 1500.000
Mar 4 08:51:24 = 1500.000
Mar 4 08:50:24 = 1500.000
Mar 4 08:49:24 = 1500.000
Mar 4 08:49:24 = 1500.000
Mar 4 08:47:23 = 1500.000
Commands:
cd
show
```

### ▼ Web インタフェースを使用して電源消費履歴を表示する

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「システム監視 (System Monitoring)」-->「電源 管理 (Power Management)」を選択します。

「電源管理 (Power Management)」ページが表示されます。

3. 「電源管理 (Power Management)」ページで、「電源履歴 (Power History)」のリン クをクリックします。

「電力使用平均 (Power Usage Average)」および「電源履歴 (Power History)」の 2 つのテーブルが表示されます。

例:

#### ■ CMM 電源履歴の例

Power History

Power Usage Average						
Sensor Name	15 Seconds Avg (Watts)	30 Seconds Avg (Watts)	60 Seconds Avg (Watts)			
/CH/VPS	1400.000	1400.000	1400.000			
/CH/BL0/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL1/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL2/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL3/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL4/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL5/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL6/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL7/VPS	No Data	No Data	No Data			
/CH/BL8/VPS	10.000	10.000	10.000			
/CH/BL9/VPS	10.000	10.000	10.000			

#### Power History

Sensor Name	Sample Set	Min Power Consumed (Watts)	Avg Power Consumed (Watts)	Max Power Consumed (Watts)	Time Period	Depth
/CH/VPS	0 (1 Minute Average, 1 Hour History)	1400.000 at Mar 22 01:47:24	1400.000	1400.000 at Mar 22 01:47:24	1 Minute Average	1 Hour History
/CH/VPS	1 (1 Hour Average, 14 Day History)	1282.835 at Mar 21 05:49:25	1385.788	1400.000 at Mar 22 01:49:24	1 Hour Average	14 Day History
/CH/BL0/VPS	0 (1 Minute Average, 1 Hour History)	No Data	No Data	No Data	1 Minute Average	1 Hour History

#### ■ SP 電源履歴の例

Mar 22 01:46:24

Integrated	l Lights	Out Man	ager						
System Infor	mation	System Moni	toring	Power Manageme	nt Configuratio	n User Management	Remote Control	Maintenance	
Allocation	Settings	History							
Power Histo	ory								
View the power	history data	from this page.							
15 Second Ave	rage: No E	lata							
30 Second Ave	rage: No E	)ata							
60 Second Ave	rage: NOL	/etta							
Power Histo	o <b>ry</b>		-						
Sensor Name	e Sam	ple Set		ľ	lin Power consumed (Watts)	Avg Power Consumed (Watts)	Max Power Consumed (Watt	s) Time Period	Depth
/SYS/VPS	0 (1	Minute Average	e, 1 Hour H	istory) N	lo Data	No Data	No Data	1 Minute Average	1 Hour History
/SYS/VPS	1 (1	Hour Average,	14 Day His	itory) M	lo Data	No Data	No Data	1 Hour Average	14 Day History

 タイムスタンプやワット単位での消費された電力など、詳細な電源履歴を表示 するには、「サンプルセット (Sample Set)」列のライブエントリをクリックし ます。

次の図は、ターゲット /CH/VPS/0 の結果として得られたサンプルセットを示しています。



1400.000

## BIOS ホストブートデバイスを上書きするための 強化された機能

ホストブートデバイスを選択し、BIOS でのブートデバイス順序の設定を上書きするために、CLI と Web インタフェースを使用できるようになりました。これにより、CLI と Web インタフェースは、既存の IPMI インタフェースと同等になります。CLI と Web インタフェースでこの機能が使用可能になったので、SP にログインしたユーザーは外部で IPMItool を使用する必要なく、この値を素早くまた簡単に変更できます。

ブートデバイス上書き機能の主な目的は、管理者がサーバの BIOS ブート順序設定を 1回限り手動で上書きできるようにすることです。これにより、管理者はマシンや マシングループを、PXE ブート環境などの他のデバイスから起動できるようになり ます。

#### 作業を開始する前に

 ホストブートデバイス構成の変数を変更するには、「リセットおよびホスト制御 (Reset and Host Control)」(r) ロールが必要です。

### ▼ CLI を使用して BIOS ホストブートデバイスの上書きを構成 する

- 1. ILOM にログインします。
- cd および show コマンドを使用して、ホストシステムへ移動します。
   例:

```
-> cd /HOST
/HOST
-> show
/HOST
Targets:
diag
Properties:
boot_device = default
generate_host_nmi = (Cannot show property)
Commands:
cd
set
show
```

 システムの電源をオンにした後に、ホストブートデバイスを設定するには、次の ように入力します:

```
-> set boot_device=値
```

可能な値は次のとおりです。

- default 値を default へ設定すると、BIOS 設定への上書きはされません。
   default へ設定すると、その前に行なわれた選択はすべてクリアされます。
- pxe 値を pxe に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序設定 が一時的に迂回され、代わりにホストが PXE ブート仕様に沿ってネットワー クから起動します。
- disk 値を disk に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序 設定が一時的に迂回され、代わりにホストが BIOS によって決定されている 第1ディスクから起動します。選択されるディスクは、構成によります。通常、 ホストはデフォルトでこの選択肢を使用しており、この選択肢を選択しても ホストの動作は変化しません。
- diagnostic 値を diagnostic に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序設定が一時的に迂回され、構成されている場合、代わりにホ ストが診断パーティションへ起動します。
- cdrom 値を cdrom に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序 設定が一時的に迂回され、代わりにホストが接続されている CD-ROM か DVD デバイスから起動します。
- bios 値を bios に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序設 定が一時的に迂回され、構成されている場合、代わりにホストが BIOS セット アップ画面へ起動します。

### ▼ Web インタフェースを使用して BIOS ホストブートデバイス の上書きを構成する

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「リモート制御 (Remote Control)」-->「ホスト 制御 (Host Control)」を選択します。

「ホスト制御 (Host Control)」ページが表示されます。

System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
KVMS F	Remote Power Control	Diagnostics	Host Cont	lon
the host contr oweron. This c	ol information. Next Bo change is not permane	ot Device configur nt.	es what the ne	ext boot device
	System Monitoring KVMS F the host contr oweron. This of	System Monitoring         Configuration           KVMS         Remote Power Control           the host control information. Next Booweron. This change is not permanent.         Remote Power Power Control	System Monitoring     Configuration     User Management       KVMS     Remote Power Control     Diagnostics       the host control information. Next Boot Device configure oweron. This change is not permanent.     Device configure	System Monitoring     Configuration     User Management     Remote Control       KVMS     Remote Power Control     Diagnostics     Host Control       the host control information. Next Boot Device configures what the nerveron. This change is not permanent.     State 100 (State 100 (

 「ホスト制御 (Host Control)」ページで、「次のブートデバイス (Next Boot Device)」リストボックスをクリックして、ブートデバイスのオプションを指定し ます。

選択可能なブートデバイスのオプションは次のとおりです。

Save

- default 値を default へ設定すると、BIOS 設定への上書きはされません。
   default へ設定すると、その前に行なわれた選択はすべてクリアされます。
- pxe 値を pxe に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序設定 が一時的に迂回され、代わりにホストが PXE ブート仕様に沿ってネットワー クから起動します。
- disk 値を disk に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序 設定が一時的に迂回され、代わりにホストが BIOS によって決定されている 第1ディスクから起動します。選択されるディスクは、構成によります。通 常、ホストはデフォルトでこの選択肢を使用しており、この選択肢を選択し てもホストの動作は変化しません。
- diagnostic 値を diagnostic に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序設定が一時的に迂回され、構成されている場合、代わりにホストが 診断パーティションへ起動します。
- cdrom 値を cdrom に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序 設定が一時的に迂回され、代わりにホストが接続されている CD-ROM か DVD デバイスから起動します。
- bios 値を bios に設定すると、次回のホストブートで BIOS ブート順序設 定が一時的に迂回され、構成されている場合、代わりにホストが BIOS セット アップ画面へ起動します。
- 4. 「保存 (Save)」をクリックして変更を有効にします。

## 障害の発生したコンポーネントを交換した後に、 障害をクリアする

ILOM ベースのサービスプロセッサ (SP) は、ホスト (CPU、メモリ、および I/O ハブ) 上の主要システムコンポーネントやシャーシ (ファン、電源、温度など) 中の環境サブ システムで発生するエラーイベントについてのエラー遠隔測定を受信します。その後、 コンポーネントや状態が障害イベントとして診断され、ILOM イベントログへ記録さ れます。

障害をクリアするために必要なステップは、使用しているサーバプラットフォームの タイプ (サーバモジュールとラック搭載型サーバ)によって大きく異なります。例:

- サーバモジュールが適切に削除される準備が整い、シャーシから物理的に削除されると、サーバモジュールで発生する ILOM ベースの障害が持続することはありません。そのため、コンポーネントが物理的に交換された後に、障害をクリアするためのサービス動作は必要ありません。障害メッセージが履歴のために ILOM イベントログに記録されます。
- ラックマウントサーバで生じた ILOM ベースの障害は持続するため、コンポーネントがファンや電源のようなホットスワップ可能なコンポーネントでない限り、コンポーネントが物理的に交換された後に障害をクリアするサービス動作が必要になります。ホットスワップ可能なコンポーネントはプラットフォーム特有であるため、ホットスワップ可能なコンポーネントのリストについては、プラットフォームのマニュアルを参照してください。障害メッセージが履歴のために ILOM イベントログに記録されます。ラックマウントサーバでは、コンポーネントがホットスワップ可能でない場合、そのコンポーネントを物理的に交換した後に、後に生じる障害を手動でクリアしてください。
  - CPU 障害
  - DIMM (メモリーモジュール) 障害
  - PCI カード障害
  - マザーボード障害 (マザーボードが交換されていない場合)
- CMM を含むシャーシにインストールされたコンポーネントで生じる ILOM ベースの障害は、障害を生じたコンポーネントが交換されたときに ILOM CMM によって自動的にクリアされます。しかし、シャーシレベルのコンポーネントがホットサービス可能でない場合、障害を ILOM CMM から手動でクリアする必要があります。

特に、CMM は次のシャーシレベルコンポーネントでの障害を、障害を生じたコン ポーネントが交換された後に自動でクリアします。

- CMM 障害
- ファン障害
- 電源障害
- Network Express Module (NEM) 障害
- PCI Express Module 障害

注 - 使用しているシステムで提供される ILOM 障害の管理機能についての詳細は、 ILOM 3.0 の各種マニュアルおよびサーバプラットフォームに付属のマニュアルを参 照してください。

#### 作業を開始する前に

- 障害情報を表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが必要です。
- システムコンポーネント上の障害をクリアするためには、「管理者 (Admin)」(a) ロールが必要です。

## ▼ CLI を使用した障害の表示とクリア

- 1. ILOM にログインします。
- 2. 障害が生じたコンポーネントのリストを表示するには、次のように入力します。
  - サーバから: -> show /SP/faultmgmt
  - CMM から: -> show /CMM/faultmgmt
- 3. ILOM イベントログで障害メッセージを表示するには、次のように入力します。
  - サーバから: -> show /SP/logs/event/list
  - CMM から: -> show /CMM/logs/event/list
- 4. 障害の発生したコンポーネントを修理するか交換します。
- 5. コンポーネント上で障害をクリアするには、次のコマンドを入力します。

-> **set** component\_path **clear\_fault\_action=true** Are you sure you want to clear component\_path (y/n)? **y** Set 'clear fault action' to 'true'

ここで、component\_pathは、次の障害を発生したコンポーネントのいずれかです。

- プロセッサ
- メモリー
- マザーボード
- ファンモジュール
- 電源
- CMM 障害
- NEM 障害
- PCI カード障害

たとえば、プロセッサ障害をクリアするには、次のように入力します。

-> set /SYS/MB/P0 clear\_fault\_action=true Are you sure you want to clear /SYS/MB/P0 (y/n)? y Set 'clear fault action' to 'true'

## ▼ Web インタフェースを使用した障害の表示とクリア

- 1. ILOM にログインします。
- 2. ILOM で検出された障害の生じたコンポーネントを表示するには、次の手順を行 なってください。
  - a. Web インタフェースページで、「システム情報 (System Information)」--> 「障害管理 (Fault Management)」を選択します。

「障害管理 (Fault Management)」ページが表示され、ID、FRU、およびタイムスタンプごとに障害の発生したコンポーネントが一覧されます。

b. 障害の発生したコンポーネントに関する追加情報を表示するには、障害の発生 したコンポーネントの ID をクリックします。

障害の発生したコンポーネントに関する追加情報がダイアログに表示されます。

注 – または、「コンポーネント管理 (Component Management)」ページでコンポー ネントの障害状態を表示することもできます。「コンポーネント管理 (Component Management)」ページで、障害状態の情報を表示するためにコンポーネント名をク リックします。

3. システムで障害の発生したコンポーネントを修理するか交換します。

障害の発生したコンポーネントを修理するか交換した後、ILOM 中の障害状態を クリアする必要があります。

- ILOM で表示された障害の生じたコンポーネントのステータスをクリアするには、次の手順を行なってください。
  - a. Web インタフェースページで、「システム情報 (System Information)」--> 「障害管理 (Fault Management)」タブを選択します。
  - b. 「障害管理 (Fault Management)」ページで、障害の発生したコンポーネントの 隣のチェックボックスをオンにした後、「障害をクリアする (Clear Fault)」をク リックします。

## ILOM Web ページで使用できるジャンプリンク

いくつかの複数のセクションを提供している ILOM 3.0.3 Web インタフェースページ には、ページ間の移動を向上させるために Web ページの上部に「ジャンプリンク」が 追加されました。これらのページの情報、設定、および制御は変更されていません。

項目	
	リンク
「Active Directory」ページで行った	• 22 ページの「「ユーザー管理 (User
変更を表示	Management)」>「Active Directory」」
「LDAP/SSL」ページで行った変更を	• 23 ページの「「ユーザー管理 (User
表示	Management)」>「LDAP/SSL」」
「SNMP」ページで行った変更を表示	<ul> <li>23 ページの「「構成 (Configuration)」&gt; 「システム管理アクセス (System Management Access)」&gt;「SNMP」」</li> </ul>
「ユーザーアカウント (User	<ul> <li>24 ページの「「ユーザー管理 (User</li></ul>
Accounts)」ページで行った変更を	Management)」>「ユーザーアカウント
表示	(User Accounts)」」

次の図は、ページ間の移動を容易にするためにジャンプリンクが追加された ILOM Web インタフェースページを示しています。

### 「ユーザー管理 (User Management)」-->「Active Directory」

ntegrated Li	ights Out Mar	nager					
System System Configuration User Management							Maintenano
User Accounts	Active Sessions	LDAP	LDAR	P/SSL	RADIUS	Active Direc	tory
Active Director	ry Management						
Configure Active Dir Dperator, Advanced port used to communi- evels to control the a nformation and click	ectory settings on this or none(server autho nicate with your serve amount of debug infor ( Load Certificate to co	page. Selec rization). En r, uncheck A mation sent omplete the	et defaul ter the H l <i>utosele</i> to the lo process	it roles fo lostnam <i>ct.</i> Enter og. To los	or all Active Di e or IP addres a timeout valu ad a certificate	rectory users, ei is of your server ue in seconds. L e, fill in the Certi	ither Administrat . To change the Jse the log detai ficate File Uploa

¥	Settings	¥	Certificate Information	¥	Admin Groups
×	Operator Groups	×	Custom Groups	×	User Domains
×	Alternote Servers	×	DNS Locator Queries		

## 「ユーザー管理 (User Management)」-->「LDAP/SSL」

System Information	System Monitoring	Configuration		User Management		Remote Control	м	aintenance
User Accounts	Active Sessions	LDAP	LDAF	9/SSL	RADIUS	Active Direc	tory	]
AP/SSL Ma	inagement							

¥	Settings	¥	Certificate Information	¥	Admin Groups
×	Operator Groups	×	Custom Groups	×	User Domains
¥	Alternate Servers				

# 「構成 (Configuration)」-->「システム管理アクセス (System Management Access)」-->「SNMP」

Integrated	Lights Out M	anager								
System Information	System Monitorir	U	Configur	ation	U M	ser Ianagemer	nt Co	emote ontrol	Maint	enance
System Management Access	Alert Management	Network	DNS	Seria Port	al	Clock	Timezone	Syslog	SMTP Client	Policy
Web Server	SSL Certificate	SNMP	SSH Serv	er I	IPMI					

#### SNMP Management

Manage SNMP users, communities, and access from this page. Use the checkboxes to control the state of the SNMP Agent, permission for Set Requests, and access for each of the protocols.

Settings
 Communities
 Users

### 「ユーザー管理 (User Management)」-->「ユーザーアカウント (User Accounts)」

Integrated Lights Out Manager								
System Information	System System Configuration User Remote Control Maintenance							aintenance
User Accounts	Active Sessions	LDAP	LDAF	P/SSL	RADIUS	Active Direc	tory	]
User Accounts         Active Sessions         LDAP         LDAP/SSL         RADIUS         Active Directory           User Account Settings         Add, delete, or modify local ILOM user accounts and SSH Keys from this page. ILOM offers 10 local user accounts. Single Sign On enables an ILOM user to access the ILOM Remote Console without being prompted again for a password. It also enables any ILOM user logged in to the Chassis Monitoring Module to access any blade Service Processor without being prompted again for a password. Single Sign On must be enabled on each Service Processor you want to access with this feature, which is enabled by default.           *         Single Sign On         * Users           *         SSH Keys							accounts. h for a Service e Processor	

## ILOM 3.0.3 までに解決済みの問題

このセクションでは ILOM 3.0.3 を含め、それ以前に解決済みの問題を説明します。 その問題固有の変更依頼 (CR) 識別番号と回避方法が存在する場合は、それも記述 しています。

項目

説明	リンク
ILOM リモートコンソールに関する解 決済みの問題	• 25 ページの「国際キーボードでの Alt Graph キーの機能」
ユーザー管理に関する解決済みの問題	• 25 ページの「ファイルをアップロードしている ときに、Web インタフェースが「参照 (Browse)」ボタンを表示しない」
SSH ホストキーに関する解決済みの 問題	<ul> <li>26 ページの「新しく作成された SSH キーが SSH サーバの再起動の必要なしにすぐに使用可能に」</li> <li>26 ページの「SSH ホストキーをロードしてもエ ラーメッセージが表示されない」</li> </ul>
警告管理に関する既知の問題	<ul> <li>27 ページの「IP アドレスを使用した電子メール アドレスが「警告管理ルールクエリー (Alert Management Rule Query)」で許可される」</li> </ul>
### 国際キーボードでの Alt Graph キーの機能

クライアントで特定のバージョンの ILOM リモートコンソールを実行しているとき に、国際キーボードで Alt Graph キーが誤動作します。

この問題は2とおりで解決されました。

- 回避方法: ILOM リモートコンソールで「右側の Alt」キーボードメニュー項目を オン/オフにするためのショートカットのキーの組み合わせ (ALT-z) を追加する という回避方法があります。この回避方法は Java 開発キット (JDK) のバージョン には依存しません。ただし、この回避方法は ALT-GR キーを直接入力できないと いう点で限界があります。この回避方法を使用するには、ショートカットキー (ALT-z) をサポートしているバージョンの ILOM リモートコンソールが実行され ている必要があります。
- 2 根本的な解決方法: この解決方法では、特別の「リモートコンソール (Remote Console)」メニューのオプションや操作なしで、直接 ALT-GR キーを入力します。 ただし、それには新しいバージョンの JDK を使用することが必要です。根本的な 解決方法を使用するには、ALT-GR キーを直接入力するバージョンの ILOM リモー トコンソールが実行されている必要があります。次の JDK 要件も根本的な解決に 必要です。
  - Windows では、JDK 1.5 かそれ以降のバージョンを使用する。
  - Solaris および Linux では、JDK 1.6 update 10 かそれ以降のバージョンを使用 する。

ILOM の version コマンドを使用して、プラットフォームでどのバージョンの ILOM が実行されているかを判別できます。

注 – ILOM 3.x の Linux および Solaris バージョンでは、回避方法と根本的な解決 方法が両方とも追加されています。ILOM 3.x の Windows バージョンでは根本的 な解決方法として説明された機能が追加されていますが、回避方法は追加されてい ません。

## ファイルをアップロードしているときに、Web イン タフェースが「参照 (Browse)」ボタンを表示しない

#### CR 6787083

問題:前のバージョンの ILOM では、次の状況のとき構成ページで SSL 証明書をアップロードするための「参照 (Browse)」オプションが表示されません。

- HTTPS アクセスのために別の SSL 証明書とキーをアップロードするとき
- LDAP/SSL のために省略可能な証明書を構成するとき

- Active Directory のために省略可能な証明書を構成するとき
- ユーザー SSH キーを構成するとき
- バックアップと復元操作を構成するとき

SSL 証明書を入手するために「アップロード (Upload)」ボタンをクリックすると新 しいウィンドウが表示されますが、ファイルを選択してアップロードすることができ ません。

**更新:** この問題は ILOM 3.0.3 リリースで修正されています。SSL 証明書をアップロードするための「参照 (Browse)」オプションが使用可能になりました。

### 新しく作成された SSH キーが SSH サーバの再起 動の必要なしにすぐに使用可能に

#### CR 6781487

問題:新しい SSH キーを作成しているとき、新しいキーを有効にするために SSH サーバを再起動する必要がありません。新しい SSH キーはすぐに新しい接続に使用 できます。

更新: ILOM 3.0.3 では SSH キーはサーバの再起動なしにすぐに新しい接続に使用できます。

### SSH ホストキーをロードしてもエラーメッセージ が表示されない

#### CR 6776200

問題:前のバージョンの ILOM では、SSH ホストキーをアップロードするために load コマンドを使用すると set: Command Failed というエラーメッセージが、 SSH ホストキーが正常にアップロードされても表示されました。ILOM 3.0.3 やそれ 以降のバージョンでは、このエラーメッセージは表示されなくなりました。

更新: この問題は ILOM 3.0.3 リリースで修正されています。

# IP アドレスを使用した電子メールアドレスが 「警告管理ルールクエリー (Alert Management Rule Query)」で許可される

#### CR 6776214

問題: ILOM の警告管理機能を使用しているとき、以前のバージョンの ILOM ではホ スト名ベースの電子メールアドレスを使用する必要がありました。このバージョンか ら IP アドレスを使用して電子メール警告を送信できるようになりました。

**更新:** IP ベースの電子メールアドレスのための別のチェックが ILOM 3.0.3 リリース へ追加されたため、本来の検証が失敗した場合、システムは次に特に電子メールと IP アドレスをチェックします。

# ILOM 3.0.3 時点での既知の問題

このセクションでは ILOM 3.0.3 までに既知の問題を説明します。次の表はこれらの 既知の問題を表記し、その問題を説明しているセクションを示します。

項目	
説明	リンク
予期しない BIOS 動作	<ul> <li>28 ページの「SP 再起動の後、BIOS 更新がすぐに 行なわれない」</li> </ul>
デフォルトヘリセットしたときの予 期しない動作	<ul> <li>28 ページの「外部シリアルポート設定がデフォ ルト値にリセットしない」</li> </ul>
時間刻みのタイムスタンプの動作	<ul> <li>29 ページの「時間刻みの電力平均タイムスタン プが1時間未満の増加分を計測しない」</li> </ul>
SSH キーがロードされない	<ul> <li>29 ページの「バックアップと復元の後、SSH キーの復元に失敗する」</li> </ul>

### SP 再起動の後、BIOS 更新がすぐに行なわれない

#### CR 6813514

問題: SP ファームウェアを更新するとき、BIOS ファームウェアをすぐに更新するか、 BIOS 更新を後で行なうかを選択できます。BIOS をすぐに更新するを選択した場合、 SP ファームウェアは更新され、ホストの電源が強制的にオフになり、SP が再起動し ます。BIOS 更新を後で行なうよう選択した場合、SP ファームウェアは更新され、SP が再起動します。

使用している選択にかかわらず、BIOS はすぐにプログラムされません。代わりに、 SP は新しい 3.x イメージを再起動し、ホストの電源がオフになるのを待機します。 BIOS をすぐに更新するオプションを選択した場合、ホストの電源はオフになり、ホ スト BIOS のプログラムを開始します。このプロセスは、完了するまでに 2 ~ 5 分か かります。

ただし、2つの問題が発生する可能性があります。

- 問題 1: すぐに BIOS を更新するオプションを選択した場合、ホスト BIOS はプロ グラムされますが、BIOS 更新がプログラムされているという表示がありません。
   BIOS がプログラムされている間にホストの電源をオンにした場合、BIOS のプロ グラムが誤記され、ホストは起動しなくなります。解決方法として、ホストの電 源をオフにし、SP が BIOS をプログラムするまで 2 ~ 5 分待機し、それからホス トの電源をオンにしてください。
- 問題 2: BIOS 更新を後で行なうオプションを選択して、ホストの電源をオフにしなかった場合、BIOS は更新されません。SP が BIOS をプログラムするためにホストの電源をオフにしてください。単にホストを再起動した場合、古い BIOS は存在し続けます。BIOS と SP ファームウェアの不一致は、システムの誤動作につながります。

回避方法: SP ファームウェアの更新の後すぐにホストの電源をオフにして、システムを 再起動する前に少なくとも5分間待機することを強くお勧めします。

### 外部シリアルポート設定がデフォルト値にリセッ トしない

#### CR 6676339

問題: reset\_to\_defaults コマンドで ILOM 構成をデフォルト値へリセットするこ とができます。ただし、reset\_to\_defaults 動作が実行されても、外部シリアル ポート設定はリセットされません。

回避方法: ILOM を再起動する前に、CLI か Web インタフェースを使用して、外部 ポート設定を目的の値へ設定してください。CLI で /SP/serial/external を入力 するか、Web インタフェースで「構成 (Configuration)」-->「シリアルポート (Serial Port)」をクリックすることによって、外部シリアルポート設定にアクセスできます。

## 時間刻みの電力平均タイムスタンプが1時間未満 の増加分を計測しない

#### CR 6803961

問題: CLI を使用して CMM にログインしているとき、時間刻みの電力履歴は1時間 後のタイムスタンプのエントリを追加します。このエントリは、前回のタイムスタン プから現在までの平均電力を表示します。

たとえば、あるシステムが午前1時23分から始まって1時間ごとに電力平均を取る よう設定されているとします。最初の時間刻みの電力平均増加は午前2時23分に終 了します。午前2時23分のタイムスタンプのエントリは午前1時24分には表示さ れ、午前1時23分から午前1時24分までの平均電力が表示されます。このエント リは午前2時23分まで更新され続け、午前2時23分にその時間刻みの増加は終了 し、新しい時間刻みの平均タイムスタンプが午前3時23分として表示されます。

更新: この問題は、今後の ILOM リリースで修正されます。

### バックアップと復元の後、SSH キーの復元に失敗 する

CR 6808138

**問題: ILOM** 構成をバックアップして復元するとき、/SP/services/ssh/keys や /CMM/services/ssh/keys の下位にある RSA および DSA 非公開鍵の復元に失敗 します。

回避方法: SP で新しいキーが作成されているとき、次のメッセージが表示されます。

Warning: the RSA host key for 'xxx.xxx.xxx.xxx' differs from the key for the IP address 'xxx.xxx.xxx' Offending key for IP in ~/.ssh/known\_hosts:216 Matching host key in ~/.ssh/known hosts:189

Are you sure you want to continue connecting (yes/no)?

**yes** を入力するか known hosts ファイルを編集します。

更新:この問題は、今後の ILOM リリースで修正されます。

# マニュアルの更新と正誤表

このセクションは、ILOM 3.0 の各種マニュアルで見つかった誤記を説明します。入手可能であれば、その問題の固有の変更依頼 (CR) 認識番号と回避方法が提供されます。

項目	
説明	リンク
set コマンドのターゲット、プロパ ティー、および値についてのマニュ アルの修正	• 31 ページの「set コマンドのターゲット、プロ パティー、および値」
いくつかの SPARC システムでサポー トされているアクティブセッションの 最大数についてのマニュアルの更新	<ul> <li>33 ページの「いくつかの SPARC システムで最大</li> <li>5 つのアクティブセッションをサポート」</li> </ul>
SPARC プラットフォームで説明され ていたが、まだ使用可能ではなかっ た機能についてのマニュアルの更新	• 33 ページの「前のバージョンの ILOM を使用し ている SPARC システムでは電源ポリシーは使用 不可」
ファームウェアのバージョンダウン についてのマニュアルの修正	<ul> <li>35 ページの「以前の ILOM バージョンへの変更 が完了しない」</li> </ul>
SSH キー機能についてのマニュアル の修正	<ul> <li>35 ページの「SSH は SSH サーバを再起動することなしに新しく作成されたキーを使用する」</li> </ul>
HTTPS SSL プロパティーについての マニュアルの修正	<ul> <li>36 ページの「ILOM インベントリで ILOM HTTPS SSL プロパティーが表示されない」</li> </ul>
使用可能な電力を監視するための SNMP コマンドについてのマニュア ルの修正	• 36 ページの「電力を監視するための SNMP コ マンドが間違っている」
ILOM へのサーバシリアル接続につい てのマニュアルの修正	<ul> <li>37 ページの「ラックマウントサーバは ILOM へのシリアル接続をサポート」</li> </ul>
スナップショットユーティリティー のサポートされた転送方法について のマニュアルの修正	<ul> <li>37 ページの「TFTP はスナップショットユーティ リティでサポートされている転送方法ではない」</li> </ul>
「ストレージリダイレクト (Storage Redirection)」についてのマニュアル の更新	<ul> <li>37 ページの「CMM Web インタフェースは Storage Redirection サービスとクライアント CTI ツールへのダウンロードリンクを提供する」</li> </ul>
電源管理ルールの例外を説明してい るマニュアルの更新	<ul> <li>38 ページの「available_power は hwconfig_power より 大きいというルール の例外」</li> </ul>

# set **コマンドのター**ゲット、プロパティー、およ び値

問題:『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』で、set コマンドで有効なターゲットに対応するプロパティー、値、およびデフォルト値に誤った入力があります。次の情報が正しい情報です。

有効なターゲット	プロパティー	值	デフォルト
/SP/clients/activedirectory	state	enabled   disabled	disabled
	defaultrole	administrator   operator   a  u   c  r   o   s	(none)
	dnslocatormode	enabled   disabled	disabled
	address	<ip アドレス=""> または <dns 名=""></dns></ip>	(none)
	port	<0 ~ 65535 の整数>	0
	strictmode	enabled   disabled	disabled
	timeout	<整数>	4
	logdetail	None   High   Medium   Low trace	none
/SP/clients/activedirectory/ cert/	certstatus	<文字列>	certificate not present
	clear_action	true	(none)
	issuer	<文字列>	(none)
	load_uri	tftp   ftp   scp	(none)
	serial_number	<文字列>	(none)
	subject	<文字列>	(none)
	valid_from	<文字列>	(none)
	valid_until	<文字列>	(none)
	version	<文字列>	(none)
/SP/clients/activedirectory/	address	<ip アドレス=""> または <dns 名=""></dns></ip>	(none)
alternateservers/n n は $1 \sim 5$	port	<整数>	0
/SP/clients/activedirectory/ alternateservers/n/cert	certstatus	<文字列>	certificate not present
$n$ は $1 \sim 5$	clear_action	true	(none)
	issuer	<文字列>	(none)
	load_uri	tftp   ftp   scp	(none)
	serial_number	<文字列>	(none)
	subject	<文字列>	(none)
	valid_from	<文字列>	(none)
	valid_until	<文字列>	(none)
	version	<文字列>	(none)

有効なターゲット	プロパティー	值	デフォルト
/SP/clients/ldapssl	state	enabled   disabled	disabled
	defaultrole	administrator   operator   a  u   c  r   o   s	(none)
	dnslocatormode	enabled   disabled	disabled
	address	<ip アドレス=""> または <dns 名=""></dns></ip>	(none)
	port	<0~65535 の整数>	0
	strictmode	enabled   disabled	disabled
	timeout	<整数>	4
	logdetail	None   High   Medium   Low trace	none
/SP/clients/ldapssl/cert/	certstatus	<文字列>	certificate not present
	clear_action	true	(none)
	issuer	<文字列>	(none)
	load_uri	tftp   ftp   scp	(none)
	serial_number	<文字列>	(none)
	subject	<文字列>	(none)
	valid_from	<文字列>	(none)
	valid_until	<文字列>	(none)
	version	<文字列>	(none)
/SP/clients/ldapssl/	certstatus	<文字列>	(none)
alternateservers/n/cert	clear_action	true	(none)
$n tail 1 \sim 5$	issuer	<文字列>	(none)
	load_uri	tftp   ftp   scp	(none)
	serial_number	<文字列>	(none)
	subject	<文字列>	(none)
	valid_from	<文字列>	(none)
	valid_until	<文字列>	(none)
	version	<文字列>	(none)
/SP/clients/ldapssl/customgr	name	<文字列>	(none)
oups/n	roles	administrator   operator   a  u	
$n$ は 1 $\sim$ 5		c r o s	(none)
/SP/clients/ldapssl/	address	<文字列>	(none)
alternateserver/n $n \ge 1 \sim 5$	port	<整数>	0

更新: この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースに追加されます。

# いくつかの SPARC システムで最大 5 つのアク ティブセッションをサポート

問題: ILOM 3.0 の各種マニュアルで、ILOM は最大 10 個のアクティブユーザーセッ ションをサポートすると記述されています。いくつかの SPARC システムではこの情 報は誤りで、最大 5 つのみのユーザーセッションをサポートします。

更新: この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースに追加されます。

### 前のバージョンの ILOM を使用している SPARC システムでは電源ポリシーは使用不可

問題: ILOM 3.0 または ILOM 3.0.2 を使用している SPARC プラットフォームには、 電源ポリシーは使用できません。

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』および『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』で、電源ポリシーが SPARC プラットフォームで使用可能な機能であるとして誤って説明されました。

**更新:** 電源ポリシーは、ILOM 3.0.3 を使用しているいくつかの SPARC プラット フォームで使用可能になりました。

次のリリースの ILOM 3.0 の各種マニュアルで、CLI および SNMP 手順ガイドは変 更されませんが、電源ポリシーを構成するための次のトピックが『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』に追加されます。

### ▼ Web インタフェースを使用して電源ポリシーを構成する

#### 作業を開始する前に

- 電源ポリシーの構成の変数を設定するには、「管理者 (Admin)」(a) ロールが必要 です。
- ■特定のプラットフォームでの電力ポリシー実装の詳細については、使用している プラットフォームの ILOM 補足マニュアルを参照してください。

注 - このセクションで説明されている電力ポリシーは、使用しているプラットフォームによっては実装されていない場合があります。実装の詳細については、プラットフォーム固有の ILOM の補足マニュアルまたはプロダクトノートを参照してください。これらの資料は、システムに付属のマニュアルセットに含まれています。

Web インタフェースを使用して電源管理ポリシーを構成するには、これらの手順に 従ってください。

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「システム監視 (System Monitoring)」-->「電源 管理 (Power Management)」を選択します。
- 3. 「電源管理 (Power Management)」ページで、次の手順を実行します。
  - a. 「電源ポリシー (Power Policy)」のボックスの一覧から「パフォーマンス (Performance)」または「エラスティック (Elastic)」をクリックします。
  - b. 「保存 (Save)」をクリックして、新しい設定を適用します。

Integrated Lights Out Manager								
System Information	System Monitoring	System Configuration		User Management	Remote Control	Maintenance		
Sensor Readings	Indicators	Event Logs	Power	Management				
Power Managem	ent							
View and configure por	wer managemen	t settings from th	is page.					
<ul> <li>Consumption × Settings</li> <li>Power History</li> </ul>								
Consumption								
Actual Power: 0.0	00 watts							
Permitted Power: 76	2 watts							
Available Power: 762 watts								
A Back to Top								
Settings								
Power Policy: Perfo	rmance 🗾							
Save								
A Back to Top								

### 以前の ILOM バージョンへの変更が完了しない

#### CR 6808009

問題:『Integrated Lights Out Manager 3.0 概念ガイド』で、「構成を保持する (Preserve Configuration)」オプションを有効にして ILOM ファームウェアを以前の バージョンへ変更するとき、保存した構成ファイルが検索されない場合、変更が完了 したときに構成はデフォルトの設定へ戻されると記述されています。この情報は誤り です。シナリオでは、更新プロセスの間、次のエラーメッセージが報告され、更新プ ロセスは停止します。

The configuration matching the version cannot be restored. Please retry without preserving config.

Firmware image update failed

load: Command Failed

- >

続けるには、更新プロセスを再度開始し、「構成を保持する (Preserve Configuration)」 オプションを選択しないようにします。更新が完了して、システムが再起動すると、 ILOM デフォルト設定が使用されます。

更新: この情報は、ILOM 3.0 の各種マニュアルのこれ以降のリリースに追加されます。

## SSH は SSH サーバを再起動することなしに新し く作成されたキーを使用する

#### CR 6781487

問題:『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』、および『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』で、新しい SSH キーを作成しているときに、新しいキーを有効にするために SSH サーバを再起動す る必要があると記述されています。この記述は有効ではなくなりました。新しい SSH キーはすぐに新しい接続に使用できます。新しいキーが有効になるために、SSH サーバを再起動する必要はありません。

更新:この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースに追加されます。

# ILOM インベントリで ILOM HTTPS SSL プロパ ティーが表示されない

#### CR 6749651

問題: 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』で、次のプロ パティが ILOM インベントリ中に存在するとして、誤って一覧表示されています。 これらのプロパティーは ILOM イベントリの一部ではありません。

- -> show /SP/services/https/ssl/custom\_cert serial\_number
- -> show /SP/services/https/ssl/custom cert version
- -> show /SP/services/https/ssl/default cert issued by
- -> show /SP/services/https/ssl/default cert serial number
- -> show /SP/services/https/ssl/default\_cert version

更新:この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースで更新されます。

### 電力を監視するための SNMP コマンドが間違って いる

CR 6766948

問題:『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』 で、電力を監視するためのコマンドが誤っています。次のコマンドが正しいコマンド です。

● SNMP を使用して使用可能な消費電力を監視するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress
sunHwCtrlPowerMgmtAvailablePower.0
```

● SNMP を使用してハードウェア構成の最大消費電力を監視するには、次のコマン ドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress
sunHwCtrlPowerMgmtHWConfigPower.0
```

● SNMP を使用して許容消費電力を監視するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress
sunHwCtrlPowerMgmtPermittedPower.0
```

更新:この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースで更新されます。

### ラックマウントサーバは ILOM へのシリアル接続を サポート

#### CR 6792940

問題: 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の表 2-1 で、ラック マウントサーバは ILOM へのシリアル接続をサポートしないと誤って記述されてい ます。ラックマウントサーバは、ILOM へのシリアル接続をサポートします。

更新:この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースで更新されます。

## TFTP はスナップショットユーティリティでサ ポートされている転送方法ではない

#### CR 6792940

問題:『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』で、TFTP はス ナップショットデータをディレクトリへ転送するときに使用するサポートされたプロ トコルであると誤って記述されています。TFTP は、スナップショットデータの転送 のためにサポートされたプロトコルではありません。サポートされた転送プロトコル は、SFTP と FTP です。

更新: この情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースで更新されます。

### CMM Web インタフェースは Storage Redirection サービスとクライアント CTI ツールへのダウン ロードリンクを提供する

#### CR 6793269

問題:『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で、Storage Redirection 機能は ILOM 3.0 ファームウェアを実行しているシャーシ監視モジュール (CMM) では サポートされていないと記述されています。ILOM での Storage Redirection CLI 機能 は、サポートしているサービスプロセッサ (SP) へ接続するためにコンピュータで実行 するツールのセット (サービスとクライアント) から構成されます。ILOM Web インタ フェースは、ユーザーがこれらのツールをダウンロードできるよう、「配信システム」 として動作します。出力先変更が CMM でサポートされていないという情報は正しいで すが、CMM Web インタフェースは「ストレージリダイレクト (Storage Redirection)」 サービスとクライアント CLI ツールへのダウンロードリンクを提供しています。サービ スとクライアントツールがダウンロードされ、コンピュータ上で実行されているなら、 それらを ILOM 3.0 を実行しているサーバモジュールへの「ストレージリダイレクト (Storage Redirection)」として使用することができます。

更新: この追加情報は、ILOM の各種マニュアルのこれ以降のリリースに追加されます。

# available\_power は hwconfig\_power より 大きいというルールの例外

#### CR 6802142

問題:『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』で、使用可能な電力 はシステムの電源が外部電源から引き込むことのできる最大電力として定義されてい ます。通常、この値はハードウェア構成の最大電力より大きくなります。一般的に、 ILOM をサポートしているラックマウントサーバでは、available\_power は常に hwconfig\_power より大きくなります。ブレードモジュラーシステムでは、 hwconfig power が available power より大きいという例外が存在します。

この例外は、シャーシシステムではそれぞれのサーバモジュールによって消費される 最大電力が hwconfig\_power の数値に含まれているため生じます。ただし、シャー シは最大電力が同時にすべてのサーバモジュールへ割り当てられることがないことを 保証しており、許容最大電力は permitted power で表示されます。

更新:この情報は、ILOMの各種マニュアルのこれ以降のリリースで更新されます。

# <u>第3章</u>

# ILOM 3.0.4 ファームウェアへの更新

この章では、ILOM 3.0.4 ファームウェアリリースに追加された新しい特長と機能を 説明します。新しい機能を実装する手順が説明されています。解決済みの問題、既知 の問題、およびマニュアルの更新も説明されています。

この章には、次のトピックが含まれています。

- 40 ページの「ILOM 3.0.4 の新しい機能」
- 63 ページの「ILOM 3.0.4 までに解決済みの問題」
- 69 ページの「ILOM 3.0.4 までに既知の問題」
- 70 ページの「マニュアルの更新と正誤表」

# ILOM 3.0.4 の新しい機能

ILOM 3.0.4 リリースに統合されたいくつかの新しい機能があります。次の表は、それらの新しい機能を一覧表示しており、その機能を説明しているセクションを示します。

項目	
	リンク
新しい電源管理レイアウトおよびし きい値制御	<ul> <li>41 ページの「SP のための電源管理の新しい Web レイアウト」</li> <li>43 ページの「消費電力しきい値」</li> </ul>
CLI セッションのための更新されたア イドル時間設定	<ul> <li>44 ページの「CLI セッションのタイムアウト 値を設定する」</li> </ul>
LDAP/SSL 認証属性のための新しく 追加されたターゲット	<ul> <li>45 ページの「LDAP/SSL の「省略可能ユー ザーマッピング (Optional User Mapping)」を 編集する」</li> </ul>
ILOM からダウンロードされた SNMP MIB の新しい機能	• 48 ページの「ILOM から直接 SNMP MIB をダ ウンロードする」
ユーザーセッションに割り当てられ たユーザーロールを表示するための 新しい機能	<ul> <li>50ページの「アクティブセッションでユーザー ロールを表示する」</li> </ul>
Active Directory の機能強化、拡張さ れた検索モード	<ul> <li>52 ページの「Active Directory で拡張検索モー ドを表示および構成する」</li> </ul>
IPMI トラップ、電子メール警告、ま たは SNMP トラップを設定するとき の、拡張されたテスト警告	<ul> <li>55 ページの「特定の警告の宛先へテスト電子 メール警告を送信する」</li> </ul>
ILOM リモートコンソールのための新 しいロック機能	• 56 ページの「ILOM リモートコンソールのコン ピュータロック」
新しい ILOM SP ネットワークポート	• 61 ページの「新しい ILOM SP ネットワーク ポート」
遠隔ホスト KVMS のための更新され たマウスモード設定	<ul> <li>62 ページの「遠隔ホスト KVMS のための強化されたマウスモード設定」</li> </ul>

### SP のための電源管理の新しい Web レイアウト

電源管理は、SP のトップレベルタブへ移動し、3 つの新しいサブレベルタブを持つ ようになりました。

- 「割り当て (Allocation)」 「電源構成設定 (Power Configuration)」は、このサ ブタブに移動しました。
- 「設定 (Settings)」 「電源ポリシー (Power Policy)」設定はこのサブタブに移動 しました。
- 「履歴 (History)」-「電力 (Power)」消費履歴はこのサブタブに移動しました。

**注** – いくつかの電源管理機能は、ILOM をサポートしているすべてのサーバで使用 可能であるわけではありません。使用しているサーバでそれぞれの電源管理特長と機 能が使用可能であるかについての詳細は、プラットフォームのマニュアルを参照して ください。

Integrated	Lights Out M	anager				
System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
Allocation	Settings History	/				

#### **Power Allocations**

View and configure the power allocations from this page. There are two Power Consumption Thresholds that can be configured. You can choose to set one or both of them. An ILOM event will be generated when the actual power consumption level exceeds either threshold.

Actual Power:	150 watts The input power that the system is currently consuming.
Permitted Power:	820 watts Guaranteed upper limit on the input power the system will consume.
HW Config Power:	820 watts The maximum input power the system hardware components can consume.
Available Power:	820 watts The maximum input power the power supplies can consume.
Threshold 1:	T Enabled
	0 watts
Threshold 2:	Enabled
	820 watts
Save	

### CMM のための電源管理の新しい Web レイアウト

電源管理は、CMM のトップレベルタブへ移動し、4 つの新しいサブレベルタブを持つようになりました。

- 「割り当て (Allocation)」 「電源構成設定 (Power Configuration)」は、このサ ブタブに移動しました。
- 「冗長 (Redundancy)」 「電源ポリシー (Power Policy)」設定はこのサブタブに 移動しました。
- 「履歴 (History)」 「電力 (Power)」消費履歴はこのサブタブに移動しました。
- 「メトリック (Metrics)」 「電源 (Power)」メトリックはこのサブタブに移動されました。

**注** – いくつかの電源管理機能は、ILOM をサポートしているすべてのサーバで使用 可能であるわけではありません。使用しているサーバでそれぞれの電源管理特長と機 能が使用可能であるかについての詳細は、プラットフォームのマニュアルを参照して ください。

Integrated Lig	ghts Out Mana	ager					
Chassis	System Information	System Monitoring	Power Management	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
CMM Blade 0 Blade 1 Blade 5 Blade 8 Blade 8 Blade 9	Allocation F Power Allocat View and configure Power Consump Power Consum There are two Power generated when the Actual Power: Permitted Power: HW Config Power: Available Power: Threshold 1: Threshold 2:	Monitoring	Management History Metrics ons from this page. er Distribution mesholds that can be sumption level exceed at the system is current limit on the input power t power the system har t power the power supp s	configured. You can o ds either threshold. In consuming. the system will consume dware components can lies can consume.	Management	Control	n ILOM event will be
	Save	0 watte	S				

### 消費電力しきい値

電力消費の2つのしきい値を設定し、しきい値を超えている場合でもILOM を作成 するようにできます。このイベントは、ILOM イベントログで記録されます。電子 メール警告が構成されている場合、電子メール警告が送信されます。SNMP トラッ プが有効である場合、イベントは SUN-HW-TRAP-MIB トラップを経由して配信さ れます。

#### 作業を開始する前に

- 電力消費構成の変数を設定するには、「管理者 (Admin)」(a) ロールが必要です。
- 電力消費構成の変数を表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが 必要です。

▼ CLI を使用して電源しきい値を表示および構成する

- 1. ILOM にログインします。
- 2. 現在の設定を表示するには、次のように入力します。
  - -> show /SP/powermgmt
- 3. しきい値を設定するには、次のように入力します。
  - -> set threshold1 2=n

*n*はワットを表わします。

**注** – しきい値1としきい値2は、最大 hwconfig 値を超えることはできません。 hwconfig 値はプラットフォーム要件に基づいて確立された変数です。

### ▼ Web インタフェースを使用して電力しきい値を表示および 設定する

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「電源管理 (Power Management)」-->「割り当て (Allocations)」を選択します。

「割り当て (Allocations)」ページが表示されます。

 「割り当て (Allocations)」ページで、プラットフォーム要件に基づいてしきい値を 設定します。

**注** – しきい値1としきい値2は、最大 hwconfig 値を超えることはできません。 hwconfig 値はプラットフォーム要件に基づいて確立された変数です。

### CLI セッションのタイムアウト値を設定する

#### CR 6280346

CLI セッションの合計時間が、セッションがタイムアウトして閉じるまでにアイドル 状態を維持するよう設定できるようになりました。timeout プロパティーが CLI ター ゲットに追加されました。許可できるタイムアウト値は、0(ゼロ) ~ 1440 分です。 0(ゼロ)は CLI セッションのタイムアウトが無効であり、CLI セッションがアイドル 状態である合計時間に関わらずセッションが閉じないことを意味します。

#### 作業を開始する前に

- clitimeoutの構成の変数を変更するには、「管理者 (Admin)」(a) ロールが 必要です。
- cli timeout の構成の変数を表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが必要です。

### ▼ CLI を使用してタイムアウト値を設定する

- 1. ILOM にログインします。
- 現在の設定を表示するには、次のように入力します。
   -> show /SP/cli
- タイムアウト値を設定するには、次のコマンドを入力します。

   > set /SP/cli timeout=n
   n は、0 ~ 1440 の数字です。
   たとえば、タイムアウト値を 60 分に設定するには、次のように入力します。
   -> set /SP/cli timeout=60

Set 'timeout' to '60'

# LDAP/SSL の「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」を編集する

#### CR 6811913

LDAP/SSL でユーザー資格検証のために、識別名 (DN) 以外の属性も使用できるようになりました。これまでは、識別名 (DN) がユーザーのログイン名を反映していない例外的環境では、ユーザーを認証するために使用されるユーザードメインを定義することは困難でした。

新しいターゲットの「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」が ILOM 3.0.4 で追加され、LDAP 認証のために代替属性の使用が可能になりました。

LDAP/SSL についての詳細、およびこの品質向上で使用される用語の定義について は、次の Web ページにある ILOM の各種マニュアルでいずれかの手順ガイド (CLI、 Web、または SNMP) を参照してください。 http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/

#### 作業を開始する前に

- LDAP/SSLの構成の変数を変更するには、「ユーザー管理 (User Management)」
   (u) ロールが必要です。
- LDAP/SSL の構成の変数を表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロー ルが必要です。
- ▼ CLI を使用して LDAP/SSL で「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」を編集する
  - 1. ILOM にログインします。
  - LDAP/SSL の「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」を表示するには、次のコマンドを入力してください。

-> show /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping

次のサンプル出力が表示されます。

```
-> cd /SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping
/SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping
-> show
/SP/clients/ldapssl/optionalUserMapping
Targets:
Properties:
    attributeInfo = (&(objectclass=person)(uid=<USERNAME>))
    binddn = cn=Manager,dc=sun,dc=com
    bindpw = (none)
    searchbase = ou=people,dc=sun,dc=com
    state = disabled
Commands:
    cd
    set
    show
```

set コマンドを使用していずれかのプロパティーを変更します。
 例:

```
-> set state=enabled
Set 'state' to 'enabled'
```

- ▼ Web インタフェースを使用して、LDAP/SSL の「省略可能 ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」を編集する
  - 1. ILOM にログインします。
  - Web インタフェースページで、「ユーザー管理 (User Management)」--> 「LDAP/SSL」を選択します。
     「LDAP/SSL 管理 (LDAP/SSL Management)」ページが表示されます。

Integrated L	ights Out Mar	nager						
System Information	System Monitoring	Power Manage	ment	Ce	onfiguration	User Management	Remote Control	Maintenance
User Accounts	Active Sessions	LDAP	LDAP/SS	L	RADIUS	Active Directory		

#### LDAP/SSL Management

Configure LDAP/SSL settings on this page. Select default roles for all LDAP users, either Administrator, Operator, Advanced or none(server authorization). Enter the Hostname or IP address of your server. To change the port used to communicate with your server, uncheck *Autoselect*: Enter a timeout value in seconds. Use the log detail levels to control the amount of debug information sent to the log. To load a certificate, fill in the Certificate File Upload information and click Load Certificate to complete the process.

<ul> <li>Settings</li> <li>Operator Groups</li> <li>Alternate Servers</li> </ul>	Certificate Information
Settings	
State: Roles:	✓       Enabled         Administrator       ✓         ✓       Admin (a)       ✓         ✓       Admin (a)       ✓         ✓       Console (c)       ✓         ✓       Reset and Host Control (r)         ✓       Read Only (o)       Service (s)
Address:	129.152.194.97
Port:	0 V Autoselect
Timeout:	4
Strict Certificate Mode:	T Enabled
Optional User Mapping:	Enabled
Log Detail:	None 💌
Save	
Back to Top	

 「省略可能ユーザーマッピング (Optional User Mapping)」フィールドで、 「編集済み (Enabled)」という文字の隣にある「編集 (edit)」リンクをク リックします。

「編集 (Edit)」ダイアログボックスが表示されます。

Integ	rated	Lights	Out I	Manag	er
202					

Edit LDAP/SSL Optional User Attribute Mapping Parameters

These optional parameters can be used to convert simple login names to Distinguished Names (DN) for user credential validation. The Attribute Information provides the LDAP query that is used to look up a user's DN based on the login information provided. The Bind DN and Bind Password are the credentials that are used to do the initial lookup. The Search Base is the starting point of the data information tree that should be searched. In most environments, this feature does not need to be enabled. It typically only benefits environments where there is no direct mapping between the login! dand the userDomain entries. Usually this only happens when 'uid' is not used as part of the DN.

State:	F Enabled
Attribute Info:	(&(objectclass=person)(uid= <username>))</username>
Searchbase;	ou=people,dc=sun,dc=com
Bind DN:	cn=Manager,dc=sun,dc=com
Bind Password:	Change
	Save Close

 「LDAP/SSL の省略可能なユーザー属性の編集 (Edit LDAP/SSL Optional User Attribute)」ダイアログボックスで、パラメータを変更し、「保存 (Save)」をク リックして変更を適用します。

### ILOM から直接 SNMP MIB をダウンロードする

#### CR 6691452

SNMP MIB のコピーが ILOM ファームウェアの一部になりました。これにより、 Web サイトやプラットフォームのツールとドライバ CD/DVD から MIB を検索する よう指示されるのではなく、ILOM から直接 MIB をダウンロードできるようになり ます。

#### 作業を開始する前に

■ ILOM から SNMP MIB をダウンロードするためには、「リセットおよびホスト 制御 (Reset and Host Control)」(r) ロールが必要です。 ▼ CLI を使用して ILOM からダウンロードされた SNMP MIB

- 1. ILOM にログインします。
- SNMP MIB を表示するには、show コマンドを使用します。
   例:

```
-> show /SP/services/snmp/mibs
/SP/services/snmp/mibs
Targets:
Properties:
    dump_uri = (Cannot show property)
Commands:
    cd
    dump
    set
    show
```

- 3. ファイルをダウンロードするには、次のコマンドのいずれかを入力します。
  - -> dump -destination <URI> /SP/services/snmp/mibs または

-> set /SP/services/snmp/mibs dump\_uri=<URI> <URI> では、ファイルをダウンロードするターゲットを指定します。 MIB を含む zip ファイルがダウンロード先のサーバに転送されます。

### ▼ Web インタフェースを使用して ILOM からダウンロードされた SNMP MIB

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースで、「構成 (Configuration)」-->「システム管理アクセス (System Management Access)」-->「SNMP」をクリックします。
   「SNMP 管理 (SNMP Management)」ページが表示されます。
- 3. MIB のジャンプリンクをクリックするか、MIB のセクションまでスクロールします。 ページ中の MIB のセクションが表示されます。

#### MIBs

The ILOM MIBs may be downloaded directly from the SP for use with an SNMP management application.

Download

Back to Top

「ダウンロード (Download)」をクリックします。
 指示に従って、ファイルの保存先を入力します。

### アクティブセッションでユーザーロールを表示する

#### CR 6714015

CLI および Web インタフェースのアクティブセッションテーブルで、すべてのアクティブセッションがロール情報 (a | u | c | r | o | s) を入手できるようになりました。

#### 作業を開始する前に

アクティブユーザーセッションロールを表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」
 (o) ロールが必要です。

### ▼ CLI を使用してアクティブユーザーセッションのロールを 表示する

- 1. ILOM にログインします。
- ユーザーセッションロールを表示するには、次のコマンドを入力します。
   -> show /SP/sessions/n

*n*はユーザーセッションの数です。

例:

```
-> show sessions/18
/SP/sessions/18
Targets:
Properties:
    username = root
    role = aucro
    starttime = Mon Apr 13 06:25:19 2009
    type = web
    mode = normal
Commands:
    cd
    show
```

- ▼ Web インタフェースを使用してアクティブユーザーセッション のロールを表示する
  - 1. ILOM にログインします。
  - 2. Web インタフェースページで、「ユーザー管理 (User Management)」--> 「アクティブセッション (Active Sessions)」をクリックします。

「アクティブセッション (Active Sessions)」テーブルが表示されます。

Integrated	Lights Out	Ma	nager						
System Information	System Monitoring	Power Management		Configuration		User Management		Remote Contro	e Maintenance
User Accounts	Active Sessio	ons	LDAP	LDAP/SSL	RA	DIUS	Active Di	rectory	

#### **Active Sessions**

View the users currently logged in to ILOM, and the type of session they initiated.

Active Sessions						
User Name	Role	Start Time	Туре	Mode		
root	Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only (aucro)	Tue Apr 21 06:20:51 2009	shell	normal		
root	Admin, User Management, Console, Reset and Host Control, Read Only (aucro)	Tue Apr 21 06:28:44 2009	web	normal		

3. 「アクティブセッション (Active Session)」テーブルで、それぞれのユーザーセッションに関連するロールが表示されます。

### ▼ Active Directory で拡張検索モードを表示および構成する

#### CR 6806991

Active Directory で、ユーザー入力の検索を制御する拡張検索モードを有効または無効にできます。デフォルトの Active Directory 機能は、適切なセキュリティを確保にするために故意に制限されています。固有のユーザー環境に順応させるために、検索 基準が拡張されました。

拡張検索モードはデフォルトでは無効です。これは、userPrincipleName が完全修飾 ドメイン名 (FQDN) 接尾辞を持つ必要があることを意味します。拡張検索モードが 有効である場合、より特定の userPrincipleName 検索がすぐに成功しない場合、別 の検索が試みられます。

#### 作業を開始する前に

- Active Directory の構成の変数を構成するには、「ユーザー管理 (User Management)」
   (u) ロールが必要です。
- Active Direction 構成の変数を表示するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが必要です。
- ▼ CLI を使用して Active Directory で拡張された検索モードを 表示および構成する
  - 1. ILOM にログインします。
  - Active Directory で拡張検索モードを表示するには、次のコマンドを入力します。
     -> show /SP/clients/activedirectory

次のサンプル出力が表示されます。

#### -> show /SP/clients/activedirectory

/SP/clients/activedirectory
Targets:
 admingroups
 alternateservers
 cert
 customgroups
 dnslocatorqueries
 opergroups
 userdomains

```
Properties:
    address = 10.8.123.45
    defaultrole = (none)
    dnslocatormode = disabled
    logdetail = none
    port = 0
    state = enabled
    strictcertmode = disabled
    timeout = 4
Commands:
    cd
    set
    show
```

Active Directory で拡張検索モードを有効にするには、次のコマンドを入力します。

-> set /SP/clients/activedirectory expsearchmode=enabled 例:

-> set /SP/clients/activedirectory expsearchmode=enabled Set 'expsearchmode' to 'enabled'

### ▼ Web インタフェースを使用して Active Directory で拡張検索 モードを表示および構成する

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「ユーザー管理 (User Management)」--> 「Active Directory」をクリックします。

「Active Directory 管理 (Active Directory Management)」ページが表示 されます。

User Accounts	Active Sessions	LDAP	LDAP/SSL	RADIUS	Active Directory	
Active Directory	Active Directory Management					
Configure Active Directory settings on this page. Select default roles for all Active Directory users, either Administrator, Operator, Advanced or none (server authorization). Enter the Hostname or IP address of your server. To change the port used to communicate with your server, uncheck <i>Autoselect</i> . Enter a timeout value in seconds. Use the log detail levels to control the amount of debug information sent to the log. To load a certificate, fill in the Certificate File Upload information and click Load Certificate to complete the process.						
Settings	<ul> <li>Certificate Ir</li> </ul>	nformation	≱ Admin	Groups		
Operator Groups	Custom Gro	ups	¥ UserD	omains		
<ul> <li>Alternate Servers</li> </ul>	Alternate Servers × DNS Locator Queries					
Settings						
State:	Enabled					
Roles:	None (server Admin (a) Console ( Read Onl	authorizatio Use c) Res y (o) Ser	n) 🔽 r Managemen set and Host C vice (s)	t (u) ontrol (r)		
Address:	0.0.0.0					
Port:	0		Autoselect			
Timeout:	4					
Strict Certificate Mod	e: 🗌 Enabled					
DNS Locator Mode:	Enabled					
Expanded Search Mo	de: 🗌 Enabled					
Log Detail:	None 💌					
Save						
* Back to Top						

- 「拡張検索モード (Expanded Search Mode)」フィールドで、「有効 (Enabled)」 チェックボックスをオンにしてこのオプションを有効にしたり、「有効 (Enabled)」 チェックボックスをオフにしてこのオプションを無効にしたりします。
- 4. 「保存 (Save)」をクリックして変更を適用します。

### 特定の警告の宛先へテスト電子メール警告を送信 する

#### CR 6781900

IPMI Platform Event Trap (IPMI PET)、電子メール警告、または SNMP トラップを 編集するとき、警告ルールを保存する前に警告ルールの宛先へテスト警告を送信でき るようになりました。

#### 作業を開始する前に

■ 特定の宛先へテスト電子メール警告を送信するには、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが必要です。

### ▼ CLI を使用して特定の宛先ヘテスト電子メール警告を送信する

- 1. ILOM にログインします。
- テスト電子メール警告を送信するには、次のように入力します。
   -> set /SP/alertmgmnt/rules/n testrule=true
   n は警告ルールと関連する番号です。

### ▼ Web インタフェース を使用して特定の警告宛先へテスト電子 メール警告を送信する

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「設定 (Configuration)」-->「警告の管理 (Alert Management)」をクリックします。

「警告の設定 (Alert Settings)」ページが表示されます。

- 「警告の設定 (Alert Settings)」ページで、テスト電子メール警告を送信するため に次の手順に従って実行します。
  - a. 警告ルールのラジオボタンをクリックします。
  - b. 「テストルール (Test Rule)」ボタンをクリックして、警告ルールの宛先へテキスト電子メール警告を送信します。

### ILOM リモートコンソールのコンピュータロック

ILOM リモートコンソールに使用できるロック機能により、ILOM リモートコンソー ルセッションを終了するときにコンピュータをロックすることが可能になり、システ ムセキュリティを強化します。特に、ILOM リモートコンソールセッションを終了す るときと、サーバへの管理されたネットワーク接続が切断されるときのいずれの場合 にも、ロック動作が作動します。

ホスト上で Windows オペレーティングシステムを実行している場合、Windows をオ プションとして選択することにより ILOM でコンピュータロック機能を有効にできま す。Windows ロックモードオプションは、Windows オペレーティングシステムを ロックするための標準 Windows キーボードショートカット (CRTL+ALT+DEL K) と 連動します。

ホスト上で Solaris や Linux オペレーティングシステムを実行している場合、ILOM でカスタムロックモード機能を実装することによって、ILOM リモートコンソールが 終了するときにコンピュータロック動作を実行できます。

ILOM でのカスタムロックモード機能により、ホストのオペレーティングシステムで 事前に定義されたキーボードショートカットを使用して、システム動作を実行するこ とが可能になります。ILOM でカスタムキーボードショートカット動作を実行するに は、まずにキーボードショートカットに対応する、ホストのオペレーティングシステ ム上で実行したい動作を定義します。次に、ILOM リモートコンソールが終了すると きにその動作を実行するために、ILOM のカスタム KVMS ロックモード機能で OS キーボードショートカットのパラメータを指定します。

### ILOM リモートコンソールのロックオプションを有効にすると きの特別な考慮点

ILOM で KVMS ロックモードオプションを有効にする前に、表 3-1 にある次の特別 な考慮点を確認してください。

**表 3-1** リモートコンソールのロックオプションを有効にするときの特別な考慮点

特別な考慮点	説明
ロックオプションを 設定するには、 「コンソール (Console)」ユーザー ロールが必要です。	ILOM で ILOM リモートコンソールのロックオプションを有効に するには、ユーザーアカウントに関連して、「コンソール (Console)」(c) ロール特権が必要です。 ILOM のユーザーアカウントで「コンソール (Console)」特権を設 定することに関する詳細については、ILOM 3.0 の各種マニュアル の「ユーザー管理 (User Management)」のセクションを参照して ください。
カスタムロックモー ド機能を実行するに は、OS で事前に定 義されたキーボード ショートカットが必 要です。	ILOM リモートコンソールの接続が切断したときのために ILOM でカスタムキーボードショートカットを有効にする前に、まずホ ストのオペレーティングシステムでのキーボードショートカット 動作を定義してください。 使用中のオペレーティングシステムでキーボードショートカットを 作成する手順については、オペレーティングシステムに付属のマ ニュアルを参照してください。
カスタムロックモー ド機能は最大 4 つ の修飾子と1 つの キーを用いて定義さ れます。	ILOM でカスタムロックモード機能を指定する場合、最大4つの 修飾子と1つのキーを指定できます。事前に定義された OS キー ボードショートカットと一致させるために使用できるサポートさ れた修飾子とキーのリストは、CLI KVMS ヘルプと Web インタ フェースの KVMS ページの両方に表示されています。
複数の ILOM リ モートコンソール セッションを実行し ているときのロック 動作。	1 つ以上の ILOM リモートコンソールセッションが同一の SP で開 いている場合、ILOM で構成された Windows ロックやカスタム キーボードショートカット動作は、最後の SP ILOM リモートコン ソールセッションを閉じたときにのみ実行されます。

# ▼ ILOM CLI を使用して ILOM リモートコンソール のロックオプションを編集する

1. ILOM の SP CLI にログインします。

注 – または、ILOM の CMM CLI にログインした後に、ILOM リモートコンソール のために KVMS ロックオプションを有効または無効にしたい SP ターゲットに移動で きます。

- SP KVMS サービスの管理に関連するすべての可能なプロパティーを表示するには、次のように入力します。
  - -> help /SP/services/kvms

次のサンプル出力が表示されます。

```
/SP/services/kvms : Management of the KVMS service
   Targets:
   Properties:
        custom lock key : KVMS custom lock key
        custom lock key : Possible values = esc, end, tab, ins,
del, home, enter, space, break, backspace, pg up, pg down,
scrl lck, sys rq, num plus, num minus, f1, f2, f3, f4, f5, f6, f7,
f8, f9, f10, f11, f12, a-z, 0-9, !, @, #, $, %, ^, &, *, (, ), -,
_{-}, =, +, |, -, \cdot, [, \{, ], \}, ;, :, ', ", <, ., >, /, ?
        custom lock key : User role required for set = c
        custom lock modifiers : KVMS custom lock modifiers
        custom lock modifiers : Possible values = 1 alt, r alt,
l shift, r shift, l ctrl, r ctrl, l gui, r gui
        custom lock modifiers : User role required for set = c
        lockmode : KVMS lock mode
        lockmode : Possible values = disabled, windows, custom
        lockmode : User role required for set = c
        mousemode : KVMS mouse mode
        mousemode : Possible values = absolute, relative
        mousemode : User role required for set = c
        servicestate : KVMS service state
        servicestate : Possible values = enabled, disabled
        servicestate : User role required for set = a
```

3. SP KVMS ターゲットプロパティーを管理するために、cd、set、または show コマンドを使用して次のタスクのいずれかを実行します。

タスク	手順
KVMS のター ゲットに移動 する。	<ul> <li>KVMSのターゲットに移動するには、次のコマンドを入力します。</li> <li>-&gt; cd /SP/services/kvms</li> <li>注 – KVMSロックモードオプションを有効または無効にする前に、</li> <li>KVMSのターゲットに移動してください。</li> </ul>
KVMS ロック モードプロパ ティーを表示 する。	<ul> <li>KVMS ロックモードプロパティーを表示するためには、次のコマンドを入力します。         <ul> <li>show</li> <li>SP KVMS サービスの管理に関連するターゲット、プロパティー、およびコマンドが表示されます。</li> </ul> </li> </ul>
ILOM リモー トコンソール のロックモー ド機能を無効 にする。	<ul> <li>ILOM リモートコンソールのロックモード機能を無効にするためには、 次のコマンドを入力します。</li> <li>-&gt; set lockmode=disabled</li> </ul>
標準の Windows ホストロック モード機能を 有効にする。	<ul> <li>Windows システムで標準ロックモード機能を有効にするには、次のコマンドを入力します。</li> <li>-&gt; set lockmode=windows</li> </ul>
カスタムホス トロックモー ド機能を有効 にする。	<ul> <li>Linux、Solaris、または Windows システムでカスタムロックモード機能を有効にするには、次のコマンドを入力します。</li> <li>-&gt; set lockmode=custom</li> <li>-&gt; set custom_lock_key=<specify a="" custom="" key="" lock=""></specify></li> <li>-&gt; set lock_modifiers=<specify custom="" four="" lock="" modifiers="" to="" up=""></specify></li> <li>注 - それぞれの指定されたカスタムロック修飾子は、コンマで区切ってください。</li> </ul>

### 有効にされたカスタムロックモードの例

例えば、次のタスクを実行した場合、次のようになります。

 オペレーティングシステムをログオフするためにホスト OS でカスタムキーボー ドショートカットを事前に定義して、このキーボードショートカットは次のキー シーケンスとして定義されました。

<shift><control><backspace>

2. ILOM CLI での カスタムロック機能のための KVMS プロパティーは、次に示され たプロパティーのように表示されます。

```
/SP/services/kvms
Targets:
Properties:
    custom_lock_key = backspace
    custom_lock_modifiers = l_shift, l_ctrl
    lockmode = custom
    mousemode = absolute
    servicestate = enabled
```

## ▼ Web インタフェースを使用して ILOM リモートコン ソールのロックオプションを編集する

1. ILOM SP Web インタフェースにログインします。

注 - または、ILOM CMM Web インタフェースにログインした後に、ILOM リモートコンソールのために KVMS ロックオプションを有効または無効にしたい SP ターゲットに移動できます。

 Web インタフェースページで、「リモートコンソール (Remote Console)」--> 「KVMS」を選択します。

「KVMS 設定 (KVMS Settings)」および「ホストロック設定 (Host Lock Settings)」 で選択できるオプションを表示した、「KVMS」ページが表示されます。

 「KVMS」ページの「ホストロック設定 (Host Lock Settings)」セクションで、 次のタスクのいずれかを実行します。
タスク	手順
標準の Windows ホストロッ クモードオプションを有効に する。	<ul> <li>「ロックモード (Lock Mode)」のボックスの一覧から、 「Windows」をクリックします。</li> </ul>
カスタムホストロックモード 機能を有効にする。	<ol> <li>「ロックモード (Lock Mode)」のボックスの一覧から 「カスタム (Custom)」をクリックします。</li> <li>「カスタムロック修飾子 (Custom Lock Modifiers)」の ボックスの一覧から、オペレーティングシステムで事前 に定義されているキーボードショートカット修飾子に一 致するカスタム修飾子を最大4つクリックします。</li> <li>「カスタムロックキー (Custom Lock Key)」のボックス の一覧から、オペレーティングシステムで事前に定義さ れているキーボードショートカットキーに一致するキーを クリックします。</li> </ol>
ホストロックモード機能を 無効にする。	<ul> <li>「ロックモード (Lock Mode)」のボックスの一覧から 「無効 (Disabled)」をクリックします。</li> </ul>

4. 「保存 (Save)」をクリックして、指定した変更を適用します。

### 新しい ILOM SP ネットワークポート

ILOM 3.0.4 までに、次のデフォルトネットワークポートのサポートが追加されました。

- 5555 TCP ILOM リモートコンソール: 暗号化
- 7579 TCP ILOM リモートコンソール: シリアル
- 6481 TCP ILOM Servicetag Daemon

これらの SP ネットワークポートのサポートが、ILOM 3.0 で以前にサポートされて いたデフォルトネットワークポートに加えて、ILOM 3.0.4 に追加されました。

注 - 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』では、ILOM 3.0 の デフォルトネットワークポートが一覧表示されています。このガイドは、ILOM 3.0.4 までに使用可能になった最新のポートを追加するために更新されます。

## 遠隔ホスト KVMS のための強化されたマウスモー ド設定

ILOM 3.0.4 までに、サーバ SP をリセットする必要なしに、遠隔 KVMS のマウス モード設定を相対および絶対に切り替えられるようになりました。マウスモード構成 の変数へ行なわれた変更は、ILOM リモートコンソールですぐに有効になります。

#### 作業を開始する前に

■ マウスモードの構成の変数を編集するには、「コンソール (Console)」(c) ロール が必要です。

### ▼ CLI を使用して遠隔ホストのマウスモード設定を 編集する

1. ILOM にログインします。

2. マウスモード構成の変数を編集するには set コマンドを使用します。たとえば、

-> set /SP/services/kvms mousemode=relative

または

-> set /SP/services/kvms mousemode=absolute

# ▼Web インタフェースを使用して遠隔ホストのマウ スモード設定を編集する

- 1. ILOM にログインします。
- Web インタフェースページで、「遠隔制御 (Remote Control)」-->「KVMS」を 選択します。
- 3. 「KVMS」ページの「マウスモード (Mouse Mode)」ボックスで、「絶対 (Absolute)」または「相対 (Relative)」を選択します。

# ILOM 3.0.4 までに解決済みの問題

このセクションは、ILOM 3.0.4 リリースまでに解決済みの問題を説明します。入手可能であれば、その問題の固有の変更依頼 (CR) 認識番号と回避方法が提供されます。

項目		
	リンク	
ユーザー管理についての解決済みの 問題	<ul> <li>64 ページの「デフォルトのロールが「なし (none)」に設定されているときに、LDAP または RADIUS コマンドが動作しない」</li> <li>64 ページの「Active Directory 構成から dnslocatorquery レコードを削除することが 困難」</li> </ul>	
システムクロック設定についての解 決済みの問題	<ul> <li>64 ページの「タイムゾーンを設定するために CLIを使用しているとき、特定のタイムゾーン でクロックが正確に再計算されない」</li> </ul>	
電源管理についての解決済みの問題	<ul> <li>67 ページの「電源管理プロパティーに関するヘル プのテキストが間違っている」</li> </ul>	
スナップショット SP データについて の解決済みの問題	<ul> <li>66 ページの「スナップショットユーティリティが デバッグのためのログファイルを欠落する」</li> </ul>	
ILOM バックアップ CLI 機能につい ての解決済みの問題	<ul> <li>66 ページの「set /{target}/config dump_uriのための ILOM CLI が確認メッセー ジを表示しない」</li> </ul>	
CLI ヘルプのテキスト機能についての 解決済みの問題	<ul> <li>66 ページの「「読み取り専用 (Read-Only)」/SYS プロパティーに関するロールのヘルプのテキスト が間違っている」</li> <li>67 ページの「<target> <property> <property> の結果として得られるヘルプ出力が 混乱している」</property></property></target></li> <li>68 ページの「/SP/users/root/ssh/key/1-5 の不正確なヘルプのテキストの値」</li> </ul>	
CLI でのシリアルポート設定について の解決済みの問題	<ul> <li>68 ページの「ILOM の外部シリアルポートのフ ロー制御が誤って実装されている」</li> </ul>	

# デフォルトのロールが「なし (none)」に設定され ているときに、LDAP または RADIUS コマンドが 動作しない

#### CR 6804986

問題: LDAP または RADIUS のデフォルトのロールを「ç»çµ (none)」に設定して いるときに、割り当てられるべき「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが自動的 に割り当てられません。

更新: この問題は ILOM 3.0.4 リリースで修正されています。LDAP または RADIUS のデフォルトのロールを「なし (none)」に設定して、LDAP または RADIUS ユー ザーとしてログインした場合、「読み取り専用 (Read Only)」(o) ロールが割り当て られるようになりました。

### Active Directory 構成から dnslocatorquery レ コードを削除することが困難

#### CR 6797346

問題: dnslocatorquery レコードが Active Directory の構成の間に削除できません。

更新: この問題は ILOM 3.0.4 リリースで修正されています。dnslocatorquery レ コードのコンテンツと範囲のルールは、エントリをクリアしたり削除したりするのを 許可する点で緩和されました。エントリを完全に削除するために空白の文字列値を受 信することが許可されます。

## タイムゾーンを設定するために CLI を使用してい るとき、特定のタイムゾーンでクロックが正確に 再計算されない

#### CR 6798875

問題: タイムゾーンを設定するために CLI を使用している場合、いくつかのタイム ゾーンではクロックが正確に再計算されなかったり、クロックが変更されなかったり します。

更新:タイムゾーンを設定するために有効なグローバルタイムゾーンの名称を使用して、クロックが正確に再計算するようにしてください。インターネットの以下のサイトなどで、有効なグローバルタイムゾーンの名称のリストを検索できます。 http://en.wikipedia.org/wiki/List of tz zones by name 例えば、米国東部標準時や中部標準時にタイムゾーンを設定するためには、これらの コマンドを入力します。

-> set /SP/clock/ timezone=America/New\_York

```
-> set /SP/clock/ timezone=America/New_York
Set 'timezone' to 'America/New_York'
-> show /SP/clock/
 /SP/clock
    Targets:
    Properties:
        datetime = Wed Feb 11 13:22:28 2009
        timezone = EST (America/New York)
        usentpserver = disabled
    Commands:
        cd
        set
        show
-> set /SP/clock/ timezone=America/Chicago
Set 'timezone' to 'America/Chicago'
-> show /SP/clock/
 /SP/clock
    Targets:
    Properties:
        datetime = Wed Feb 11 12:22:36 2009
        timezone = CST (America/Chicago)
        usentpserver = disabled
    Commands:
        cd
        set
        show
```

## スナップショットユーティリティがデバッグのた めのログファイルを欠落する

#### CR 6811375

問題: /var/log からファイルを欠落すると、スナップショットユーティリティを使用して保守担当者のためにデータを収集するときにデバッグプロセスに障害が発生します。

**更新:** スナップショットユーティリティの /var/log ファイルを欠落する問題は、 ILOM 3.0.4 リリースで解決されました。

## set /{target}/config dump\_uri のための ILOM CLI が確認メッセージを表示しない

#### CR 6804202

問題: / {target}/config で dump\_uri を設定するときに、コマンドが正常であったかどうかを表示する確認メッセージを ILOM CLI が表示しません。

**更新:** set /{target}/config dump\_uri のための表示確認メッセージは ILOM 3.0.4 リリースで修正されました。

# 「読み取り専用 (Read-Only)」/SYS プロパティー に関するロールのヘルプのテキストが間違っている

#### CR 6764923、CR 6770180

問題: ILOM CLI ヘルプには、「読み取り専用 (Read-Only)」/SYS プロパティーに関する、誤解を招くユーザーロール情報が記述されています。例:

#### -> help /SYS fru\_part\_number

Properties: fru\_part\_number : FRU part number fru\_part\_number : User role required for set = r

読み取り専用プロパティーはユーザーロールに関わりなく構成できるわけではないため、ヘルプに記述されている読み取り専用プロパティーに関するユーザーロール情報 は誤解を招きます。

更新: ILOM 3.0.4 までに、read-only /SYS プロパティーの必要なユーザーロール値 が削除されて、ILOM ヘルプ機能が更新されました。

## 電源管理プロパティーに関するヘルプのテキスト が間違っている

#### CR 6770180

問題:次のプロパティーは読み取り専用で構成できません。そのため、これらのプロパティーを表示するために必要なロールは、「読み取り専用 (Read Only)」(o)です。

#### -> help /SP/powermmgmt

Properties:

actual\_power : Actual power consumed by the system actual\_power : User role required for set = o permitted\_power : Total power permitted for the system permitted\_power : User role required for set = o available\_power : Available power for the system available power : User role required for set = o

更新: この問題は ILOM 3.0.4 リリースで修正されています。このプロパティーに関連 するヘルプのテキストは、このプロパティーを表示するのに必要なロールが「読み取 り専用 (Read Only)」(o) であると、正しく指定するよう修正されました。

### <TARGET> <property> <property> の結果として 得られるヘルプ出力が混乱している

#### CR 6770069

問題: 複数のプロパティーの値を一覧するときに、ヘルプ機能が混乱したテキストを 表示しています。たとえば、

ヘルプの出力が次のように表示されています。

-> help /HOST send_break_action boottimeout status	
Properties:	
send_break_action : Send Break Action to Host	
<pre>send_break_action : Possible values = break, dumpcore</pre>	
<pre>send_break_action : User role required for set = c</pre>	
boottimeout : Boot time out	
<pre>send_break_action : Possible values = break, dumpcore</pre>	
boottimeout : User role required for set = r	
status : Host Status	
<pre>send_break_action : Possible values = break, dumpcore</pre>	
boottimeout : User role required for set = r	

ヘルプの出力は、次のように出力されるべきです。

-> help /HOST send\_break\_action boottimeout status Properties: send\_break\_action : Send Break Action to Host send\_break\_action : Possible values = break, dumpcore send\_break\_action : User role required for set = c boottimeout : Boot time out boottimeout : User role required for set = r status : Host Status

**更新:** 有効ではないプロパティーの値を削除するために、ILOM 3.0.4 リリースではヘ ルプ機能が更新されました。

### /SP/users/root/ssh/key/1-5 の不正確なへ ルプのテキストの値

#### CR 6783032

問題: /SP/users/root/ssh/keys/ の下位にあるプロパティーに関して、ヘルプの テキストにはいくつかの不正確な表記があります。

**更新:** /SP/users/root/ssh/key のヘルプ機能は ILOM 3.0.4 リリースで修正され ました。

### ILOM の外部シリアルポートのフロー制御が誤っ て実装されている

CR 6822067

問題: ILOM の外部シリアルポートのフロー制御のための、set コマンドを使用する 書き込み可能なコマンドは SPARC サーバではサポートされていません。

更新: ILOM 3.0.4 までに、ILOM の外部シリアルポートのフロー制御のための書き込 み可能なサポートは SPARC サーバではサポートされていません。ILOM の外部シリ アルポートのフロー制御のための、show コマンドを使用する読み取り専用サポート が、ILOM を使用しているすべてのサーバプラットフォームに提供されています。

# ILOM 3.0.4 までに既知の問題

このセクションでは ILOM 3.0.4 までに既知の問題とその回避方法を説明します。 入手可能であれば、それらの問題の固有の変更依頼 (CR) 認識番号と回避方法が 提供されます。

# CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイ レクトするときに、ILOM リモートコンソールが Windows クライアントを停止する

#### CR 6806444

問題: ILOM リモートコンソールから CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリ ダイレクトするために Windows クライアントを使用しているとき、ILOM リモート コンソールが反応しないことがあります。

#### 影響のあるソフトウェア:

- ILOM 2.0 かそれ以降のバージョンおよび ILOM 3.0 かそれ以降のバージョン
- ILOM リモートコンソール
- Java 開発キット (JDK) 160
- クライアントシステムにインストールされた Windows オペレーティングシステム

#### 回避方法:

- Windows クライアントで ILOM リモートコンソールウィンドウを閉じた後、次の 回避方法のいずれかを実行してください。
  - Linux か Solaris クライアントを使用して、CD-ROM イメージやフロッピーイ メージへリダイレクトするために ILOM リモートコンソールを起動する。
     または
  - Windows、Solaris、または Linux クライアントを使用して、CD-ROM やフロッピーのイメージをリダイレクトするために ILOM 3.0 で「ストレージリダイレクトユーティリティ (Storage Redirection Utility)」を起動する。

注 - 「ストレージリダイレクトユーティリティ (Storage Redirection Utility)」機能 は、ILOM 3.0 でのみ使用できるコマンドラインユーティリティです。「ストレージ リダイレクトユーティリティ (Storage Redirection Utility)」を使用する手順について は、ILOM 3.0 の各種マニュアルを参照してください。

# マニュアルの更新と正誤表

このセクションは、ILOM 3.0 の各種マニュアルで見つかった誤記を説明します。入手 可能であれば、その問題の固有の変更依頼 (CR) 認識番号と回避方法が提供されます。

項目		
	リンク	
許可できる DNS 再試行の回数につい てのマニュアルの修正	• 70 ページの「許可できる DNS 再試行の数が間 違っている」	
新しい Web 電源管理レイアウトにつ いてのマニュアルの修正	• 70 ページの「新しい Web 電源管理レイアウト」	
電源管理のしきい値についてのマ ニュアルの修正	• 71 ページの「消費電力しきい値」	

### 許可できる DNS 再試行の数が間違っている

#### CR 6823516

**問題:**『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』で、DNS 設定を 構成するための許可できる再試行の回数が 0 ~ 5 回であると誤って記述されています。

**更新:** ILOM は DNS サーバに接続するための試行を合計 5 回許可します。そのうちの 0~4回目が再試行です。

### 新しい Web 電源管理レイアウト

電源管理は、SP のトップレベルタブへ移動し、3 つの新しいサブレベルタブを持つ ようになりました。

- 「割り当て (Allocation)」 「電源構成設定 (Power Configuration)」は、このサ ブタブに移動しました。
- 「設定 (Settings)」 「電源ポリシー (Power Policy)」設定はこのサブタブに移動 しました。
- 「履歴 (History)」-「電力 (Power)」消費履歴はこのサブタブに移動しました。

詳細については、41 ページの「SP のための電源管理の新しい Web レイアウト」を 参照してください。

### 消費電力しきい値

電力消費の2つのしきい値を設定し、しきい値を超えている場合でもILOM を作成 するようにできます。このイベントは、ILOM イベントログで記録されます。電子 メール警告が構成されている場合、電子メール警告が送信されます。SNMP トラッ プが有効である場合、イベントは SUN-HW-TRAP-MIB トラップを経由して配信さ れます。

詳細については、43ページの「消費電力しきい値」を参照してください。